

花出傳
卷

79
613
2



門 9
葉 6/3
巻 2



半寸五分
寸五分
五分

草木出生傳終

丸くてもを記
庭乃くま竹



付



古流花生再興一露

居士遺傳之筆端



○ノ扉

生花草木出生傳終

○花天^ノ表形花辨一円相草木出生者七十一文字の証を以て相分以又
流儀^ヲ傳はよ^ク門^ノ下^ニ十日の日刻^ニ配^シて主傳を誌す也合^ク初心
門社の光^ニ在^リた^ル也草木出生日刻^ヲ考^ヘて^ハ一

○^初花天^ノ表形花辨一円相草木出生者七十一文字の証を以て相分以又
流儀^ヲ傳はよ^ク門^ノ下^ニ十日の日刻^ニ配^シて主傳を誌す也合^ク初心
門社の光^ニ在^リた^ル也草木出生日刻^ヲ考^ヘて^ハ一
○^初花天^ノ表形花辨一円相草木出生者七十一文字の証を以て相分以又
流儀^ヲ傳はよ^ク門^ノ下^ニ十日の日刻^ニ配^シて主傳を誌す也合^ク初心
門社の光^ニ在^リた^ル也草木出生日刻^ヲ考^ヘて^ハ一

○花天^ノ表形花辨一円相草木出生者七十一文字の証を以て相分以又
流儀^ヲ傳はよ^ク門^ノ下^ニ十日の日刻^ニ配^シて主傳を誌す也合^ク初心
門社の光^ニ在^リた^ル也草木出生日刻^ヲ考^ヘて^ハ一



並花悉くを主客有り掛花悉くを主客有り
 信を主る陽を動かす也主客定る寸信を動かす也
 信を主る陽を動かす也主客定る寸信を動かす也
 信を主る陽を動かす也主客定る寸信を動かす也

掛花を主客の沙汰を替る也指を床の上へ振る也

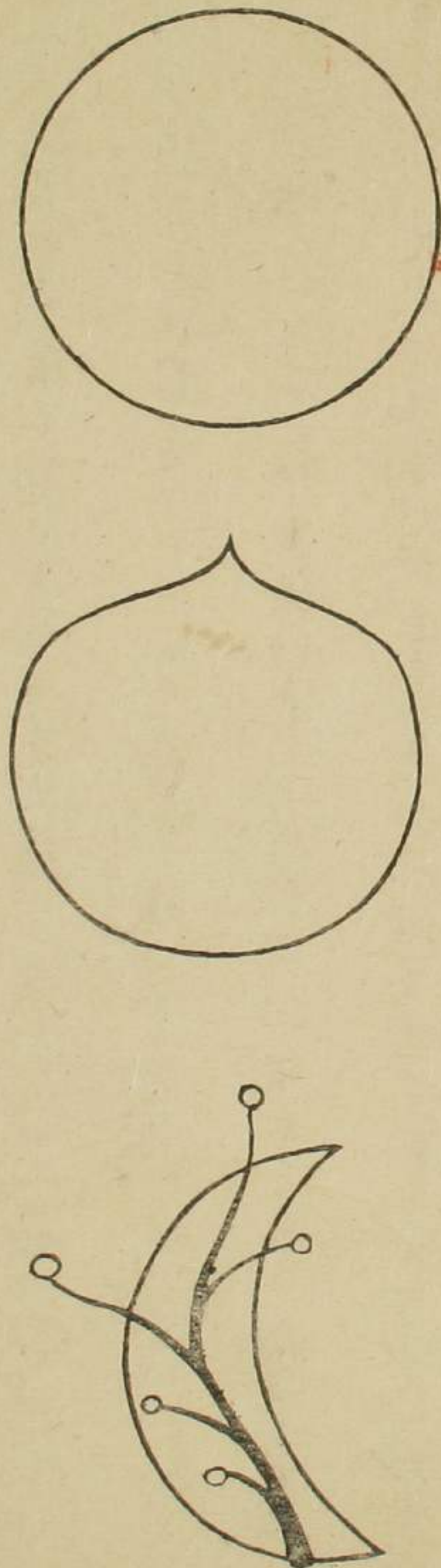
並花を主客定る寸信を動かす也

○一四相の信有り 四相を孰^{じつ}坤未分^{ぶん}信也 陰陽五行是天地開闢也 陰陽五行是天地開闢也 陰陽五行是天地開闢也 陰陽五行是天地開闢也

○花辨を半月とありて片辨也 片辨有りて五火をあり陰陽五行具成す也

○イ

花辨の半月也 陰也 半月也 花辨を陽也 花辨を陰陽不二也 かくれとく
 花辨の半月也 陰也 半月也 花辨を陽也 花辨を陰陽不二也 かくれとく



○如意珠も杖交りて福也 四おも智也 是福智同也 是福智同也 是福智同也
 如意珠も杖交りて福也 四おも智也 是福智同也 是福智同也 是福智同也

さるる皆悉く有り 四おも信有り也

一月の中ふもきる半月の花辨を信保不二の事也

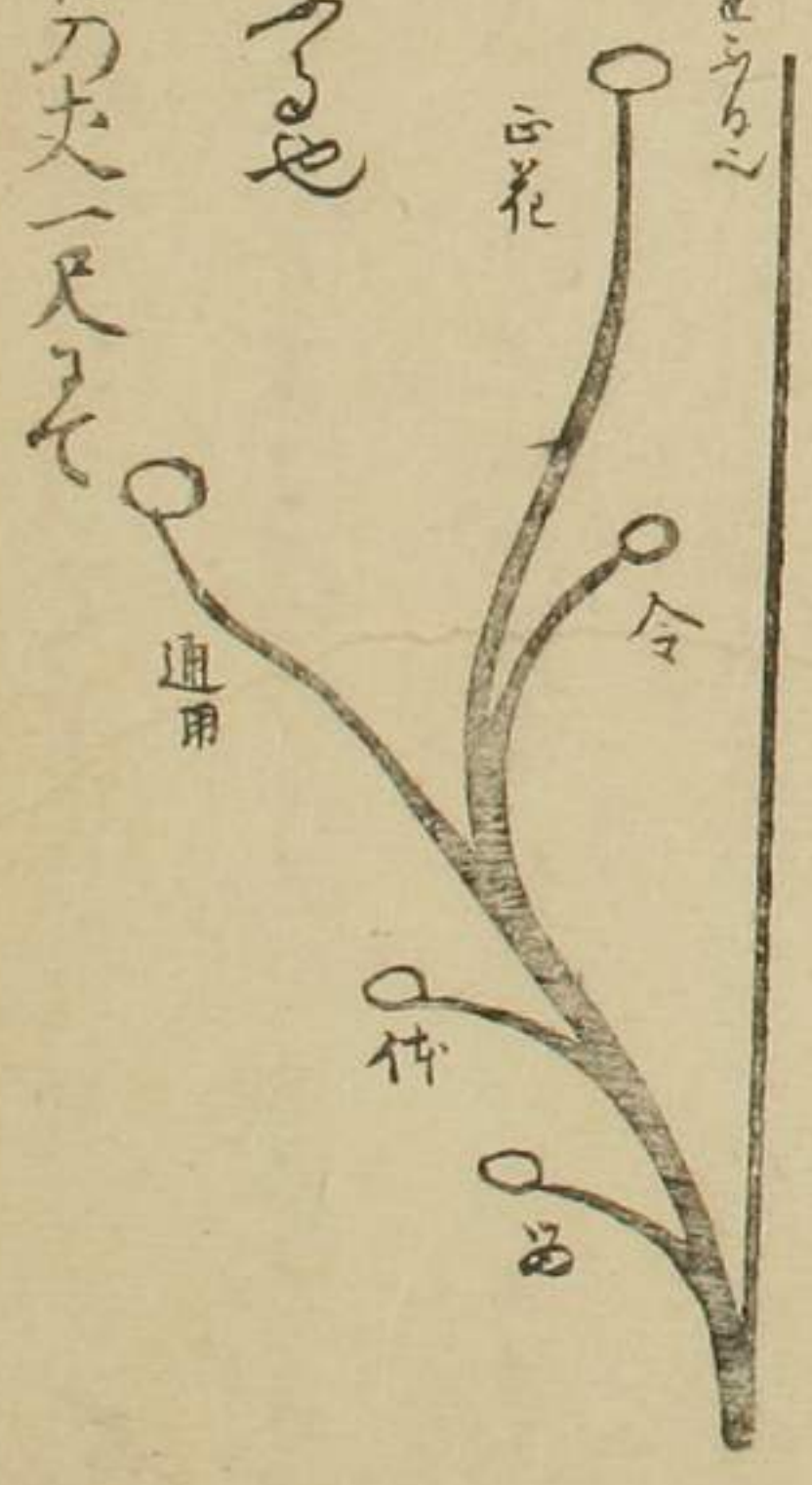
半月の形と愛珠の老りて横は五尺の寸とくこと

○草木空出生物傳高凡も天地の間は生を得るとのを四六の割を
花形五辨用極を定むると五辨を假名ふよりて五辨を成すり也

○五辨假名乃傳小口く 一花 陽 合 土 通用 五行 伸 長 四
一花の辨寸傳高く一尺の英も一尺一尺五寸は定る也一尺の丈を四六

割を付る時を各際よりぬす一寸五分ぬより伸すも一寸伸より通用
また一寸五分通用より今す一寸かくぬすりては合よりとを守下
寸也又一尺五寸割を一寸五分一寸五分一寸五分一寸五分一尺五寸伸を初
終とくゆき八上寸下九寸也

○一花の中二分欠く半月の 二寸伸をうり
辨はあり木梢の右柳屈伸
肝要也又正通伸の角の形を具す也
尺は同く五分二分の欠く寸を二花の丈一尺を
二寸指を脇へ振る也三角の形を今伸すより通用の花腰伸の花二



二寸指を脇へ振る也三角の形を今伸すより通用の花腰伸の花二

のそりて之角也草木もよふさきもさるべし

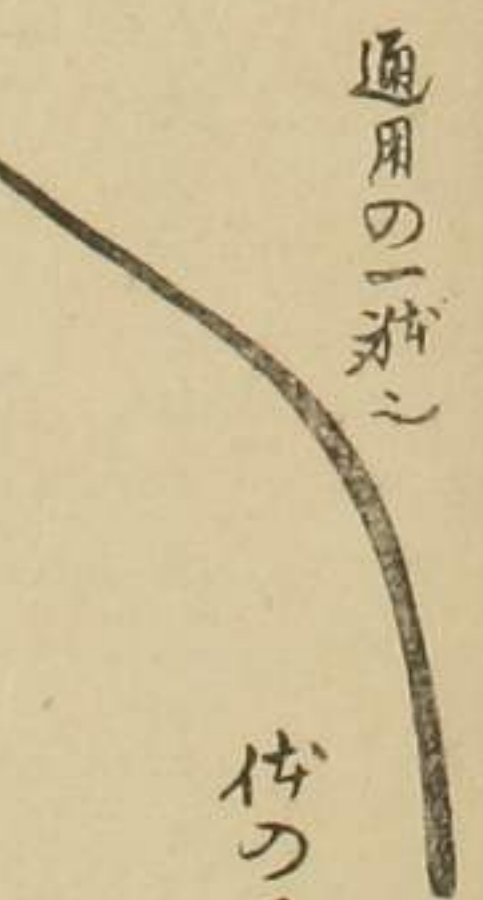
○一花の辨よをいへば五辨の花五行の花形二形乃花辨あり或は質を五辨といひ
廢たものを五行といふ也何れも草木出生するこよりて或成一は實七
口傳あり

○草木も初花盛花辨花は二辨を分ち一花の辨を或成かき也然る
そと草木丈々ある上段との下段との二つありておさし
あり次下花圖を二つ二つを記すも来づくや後なるひま
あしくを流儀を師よす川内

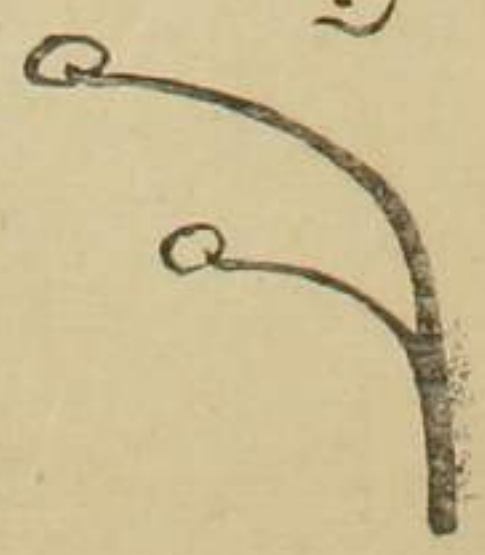
正花二辨之



通用の二辨之



体の二辨之



○五辨出生長短乃傳弁

正花 通よりも正花を二寸幅くくして、中より一分を合を働

通用 正花より通花幅を二分下より合を働よりハ之はあり

体 通よりも之を短く体を付るを体より二寸ちりめよ

○五辨出生体用を傳弁

正花 並根の中へ肉をちりく、疑ひ上より正花を

通用 根を並く中半の長く一肉持する麻^ひに^きを^と過^りは^たり
作 根も並く中もすくすく肉も細く^きを^と作^りは^たり

○丑新出生半月時新より作り傳事

半月時新を正中二分欠す梢を^と作^りは^たり

○丑新出生配養を^と信陽五行之新より作り傳事

正花より^ま今^いを^し後^うより^ち過^りを^と偶^す作^りは^たり

○丑新能名四之形割合肝要は心得^り傳事

花形^の正^の合^の通^のに^て作^りは^たり

○丑新五行二品各々花新を圖一丑新出生田成^りの^し作^りは^たり

○その花形を丑作内^の花^の新

形^の作^りは^たり

て^は四^の刻^を

今^の又^も通^の作^り

之^の角^の乃^も形^の肝^の要^也

又^も中^の半^の中^の半^のより^{偶^す作^りは^たり}

作^りは^たり

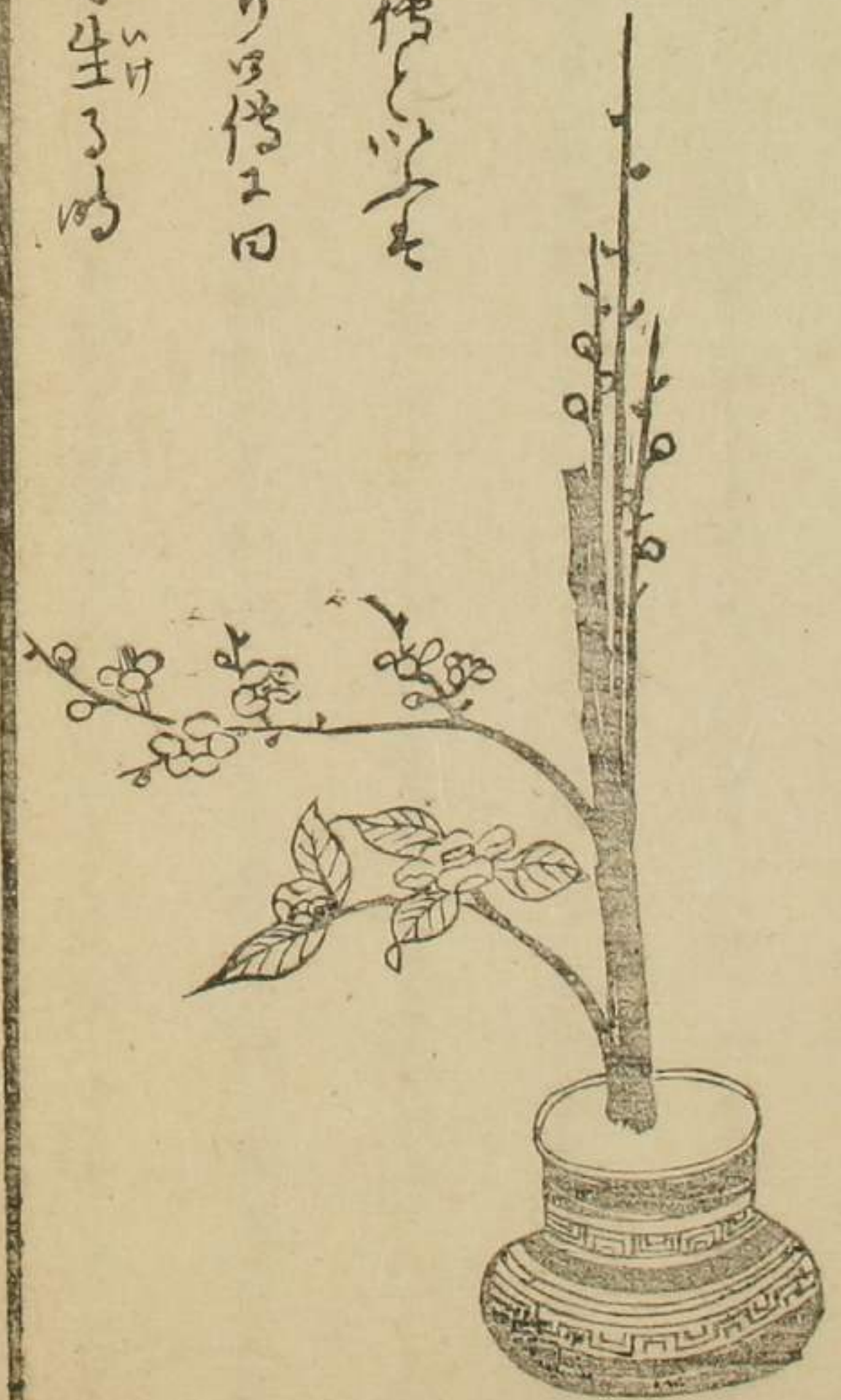
○正花を^と中^の半^のより^{二^分寄^る梢^を作^りは^たり}

前^の後^の刻^を中^の半^のより^{横^の刀^を用^いて}



梅着指^{サシ}才木^{サキ}の是枝^エ陽花^{ヨウカ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては
 生^ナくと梅^{ウメ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては
 柳^{ヤナギ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては
 立^タてては又^{マタ}傳^ツりては
 梅^{ウメ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては

○梅^{ウメ}着^{サシ}指^{サシ}才木^{サキ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては
 立^タてては又^{マタ}傳^ツりては
 梅^{ウメ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては



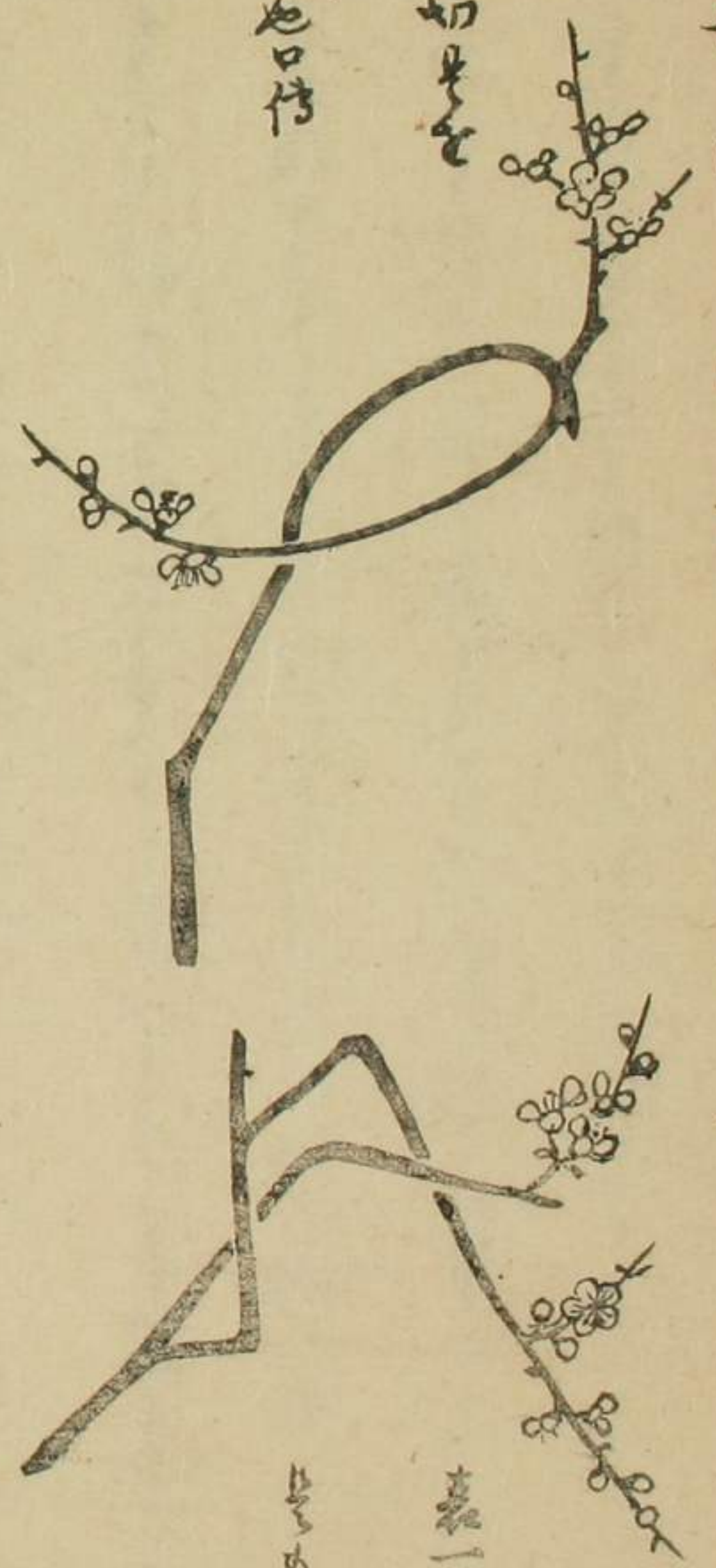
①

着^{サシ}指^{サシ}才木^{サキ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては
 立^タてては又^{マタ}傳^ツりては
 梅^{ウメ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては

○梅^{ウメ}着^{サシ}指^{サシ}才木^{サキ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては
 立^タてては又^{マタ}傳^ツりては
 梅^{ウメ}の傳^ツりては又^{マタ}傳^ツりては

一切葉一切と彫りものき枝は傳とて許す也

表一切きを
許す也口傳



表一切葉一切
口傳

ぬはとちり



ト

○ 物は若指乃生すりをも刃木修指ありの柄ありの切きりの形ありの加くは
しとるすりて若指を生すりとのよりすりありの此修指を考へて
刃木乃中腹より若指生しその柄と生すりすなり

○ 他流ふも刃木

かーは若指と

若くをえりへて修指は心一たなり

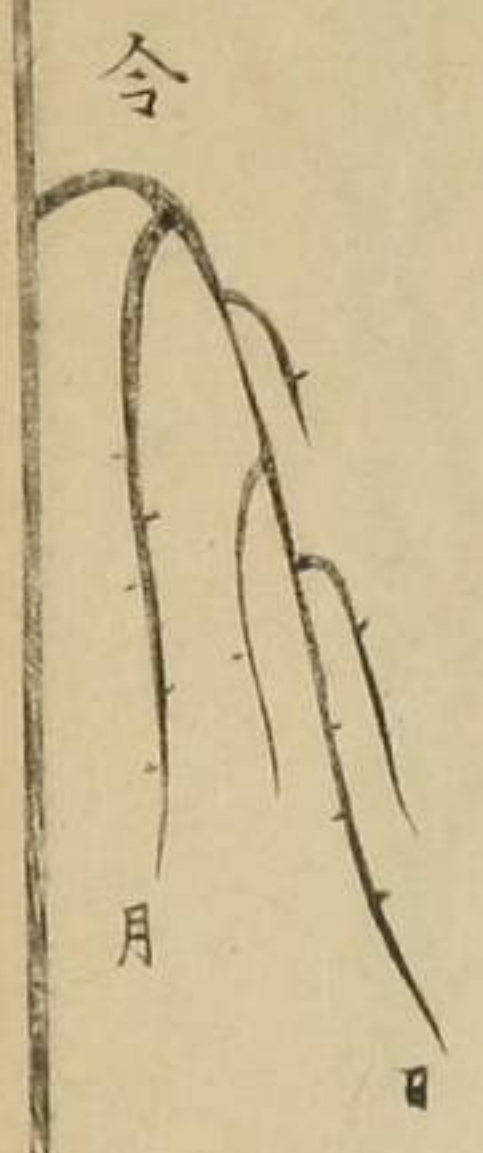
刃木形り色ハ柄きりて二年三年

ありては花生すりとのよりすりありの修指生すりと決りて形り刃木



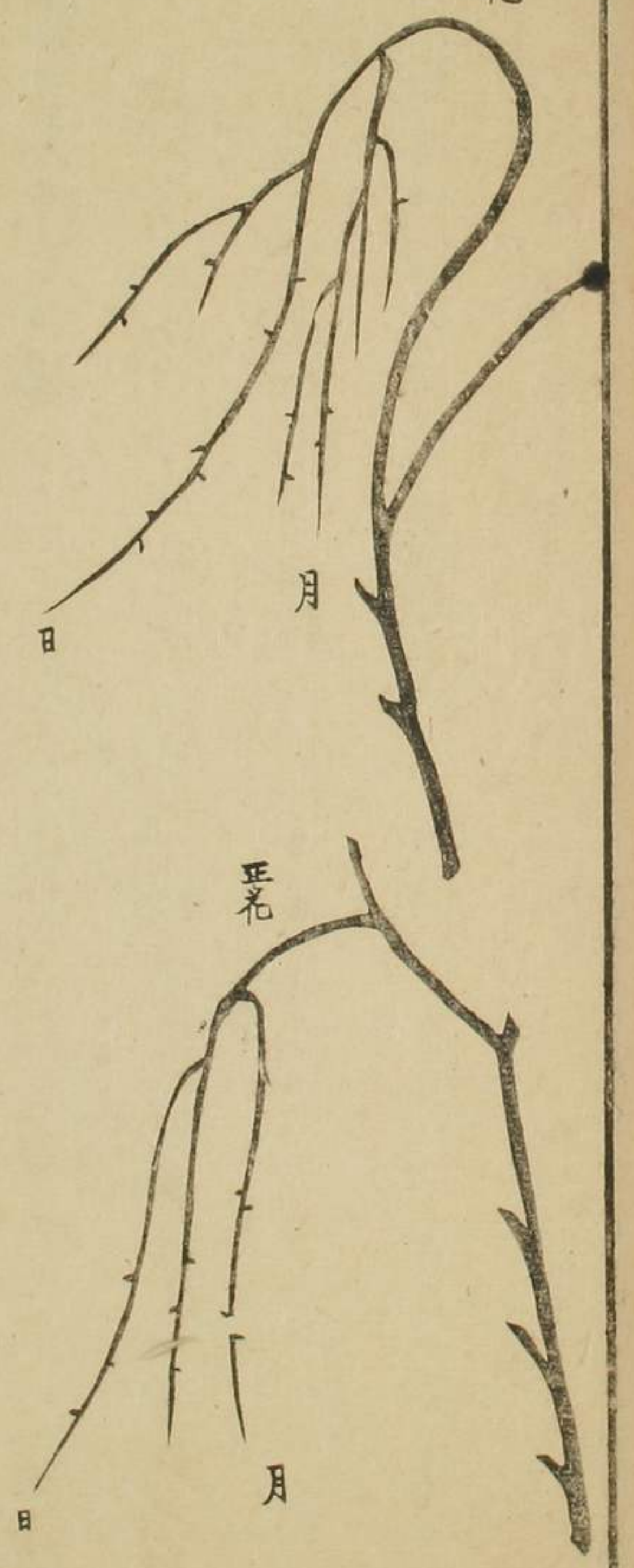
○冬之月は川の邊に陽を照らすと草木も口枯れし面を柳をこしらへて
 新しき年を告ぐ柳は花の形に似てをきし也この柳は生るると冬も又
 と婚嫁の事し乃寸魚を頼ひ事の二陽を照らす成物自ら言ふ所を
 歳事り只傳重と河也

○波柳條乃傳又曰漢土より人を送る時柳を植ふる事あり是を波柳と
 以て波を植ひ柳といふ柳は乃右支河より右は柳條を植ふる事あり
 生る也此は陽の光りて波柳の相何事も圖式を以てする也



○カ
 リ

正花



○柳正花今之處より先は信陽の對を圖りて正花は今も是れ也正花斗
 上邊より下へ枝の折れて信陽を以て也

○波柳條乃傳事若送訓を以て生る時圖りて二水に流ひて正花の方

まきふ体より上りて満葉を乱はきしを孫花也

○橘一編生の傳は旧傳陽と採り半の葉を用ひたり一編葉より一加寸
葉散すり葉形形圖式橘下と一又橘枝別傳は旧傳花乃時作爲橘
小る満葉を遠ひおわりの葉を用ひたり此の傳は初咲より寒中
斗用ひ傳也他流を橘秘傳といふ也一とを傳ひ橘秘傳傳
とて中系大家の傳教を志し一此の傳は橘の葉を半く者一

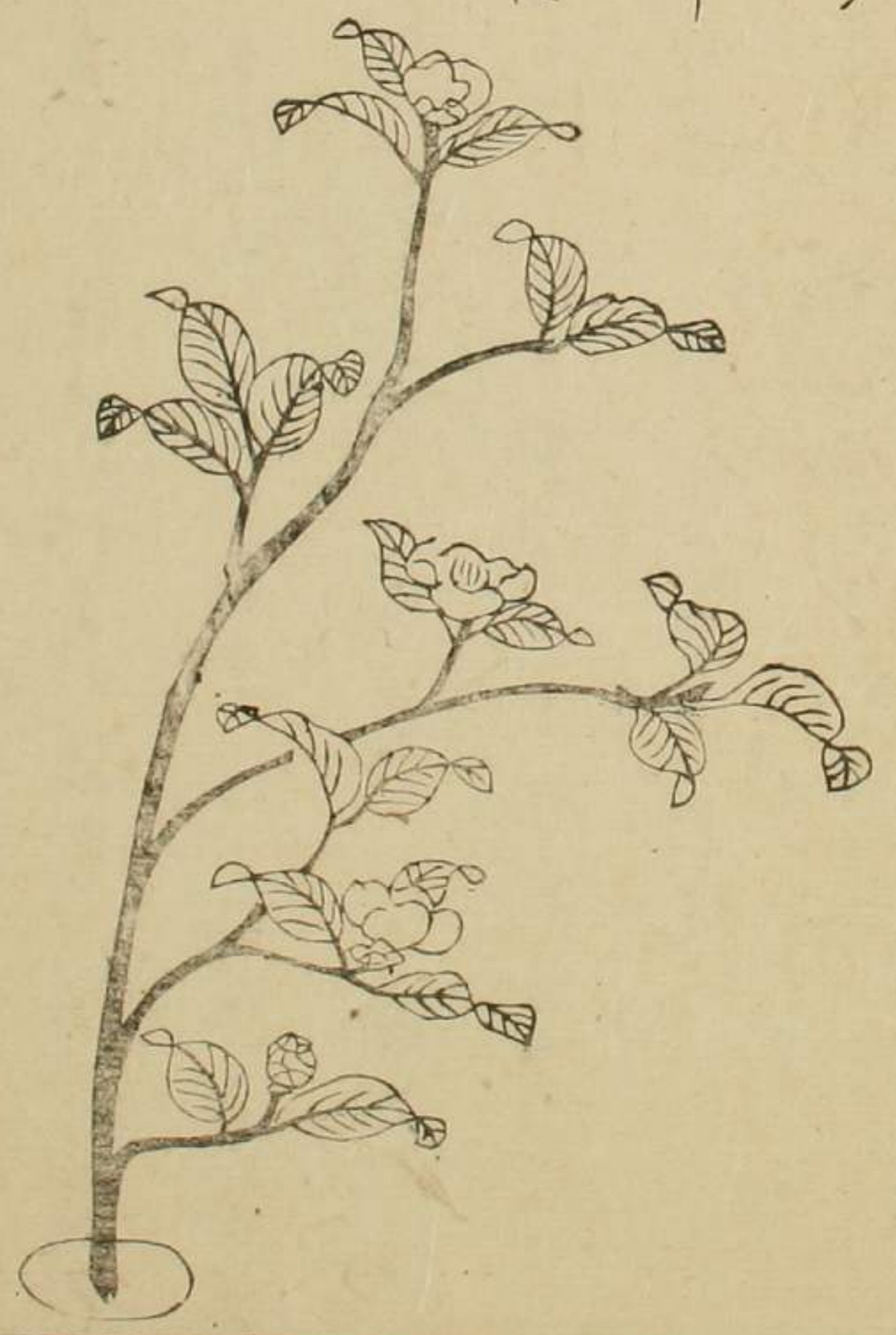
橘の傳は陰陽系乃物は一編生と之既傳は授
枇杷木寸辺より大葉中系を橘の葉を半く者一

○橘の花は茶とも四輪也

よりの花の葉を半り

よりの花の葉を半り

花五輪と之輪は時花



橘の花は下より上り下り花若小枝阿意ハ小枝橘葉もより也葉は教合
よりの花を半り橘の葉を半り用ひ傳一重なり傳

○此を花中用るも二輪也花形五つあり

辨也より今枝枝より正花通用件

因と云ふを等ふる也此も半

よりよし娘半を是る

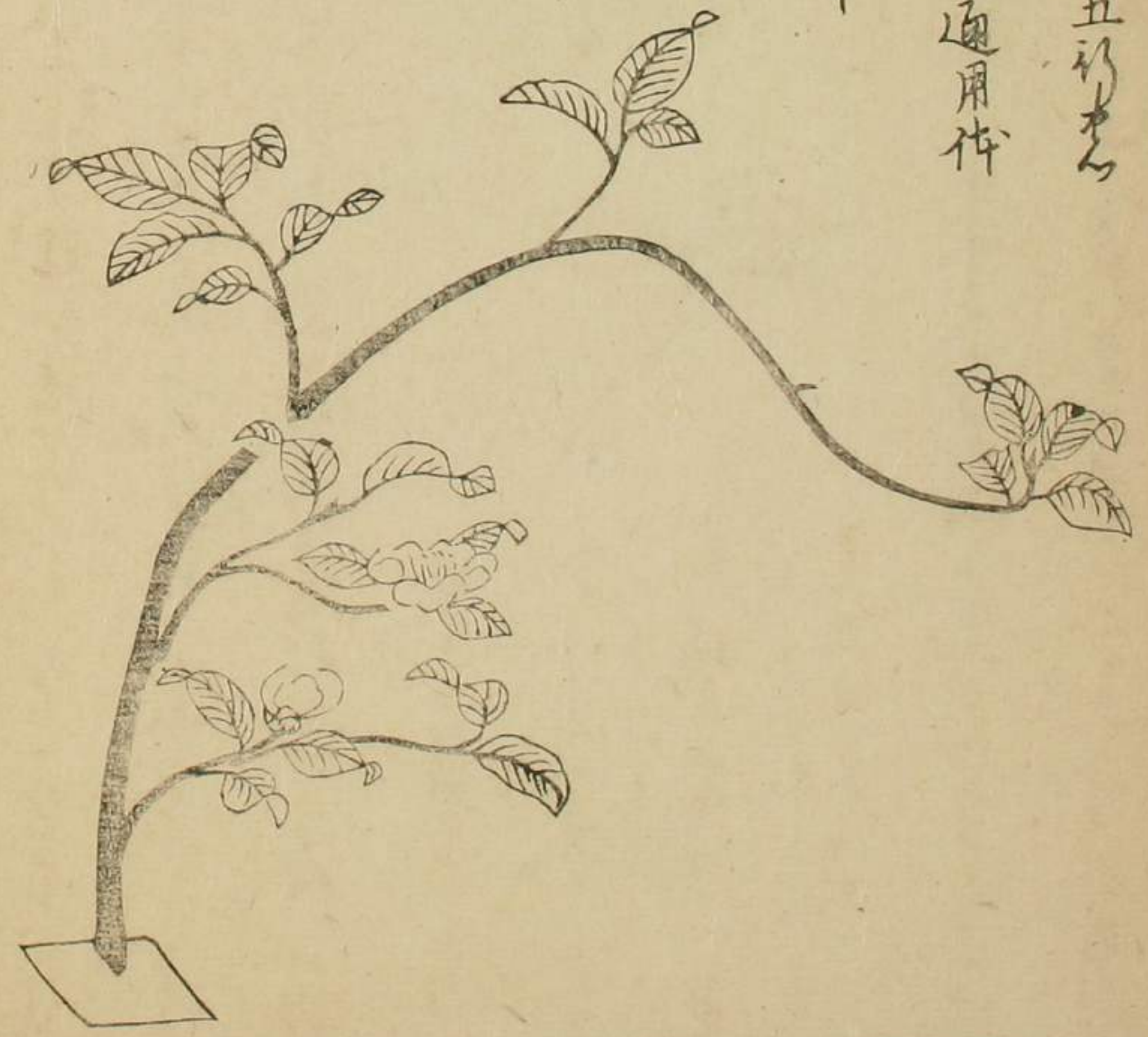
種一五辨五つあり花の

数丁形は半よりよし

半を是る半形は丁

よりよし丁よりよし

ありくくは日傳



○

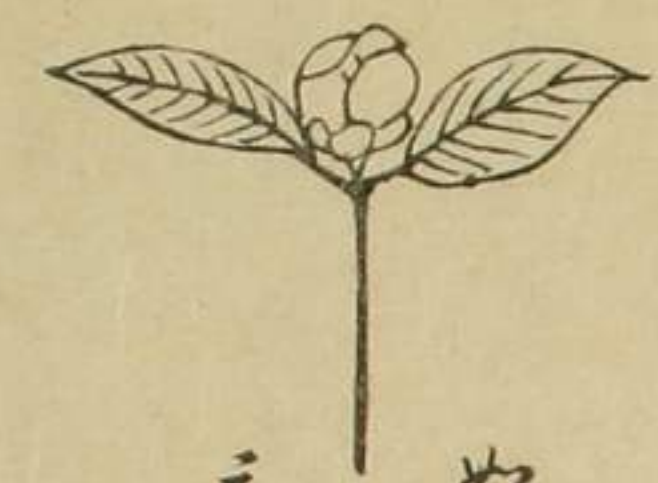
○又曰上段中流より余本をきひ下段は枝を遺ふ所のを花と云ふ是陰陽
法形を合守なり花丁形は五ハ美と半を遺ふた半形は五ハ美を丁又
遺ふ花と云ふを以て陰陽を合守り也尤も美形遺ふ方より傳あり

一輪生は傳の美あり

如き陰陽と排し半の

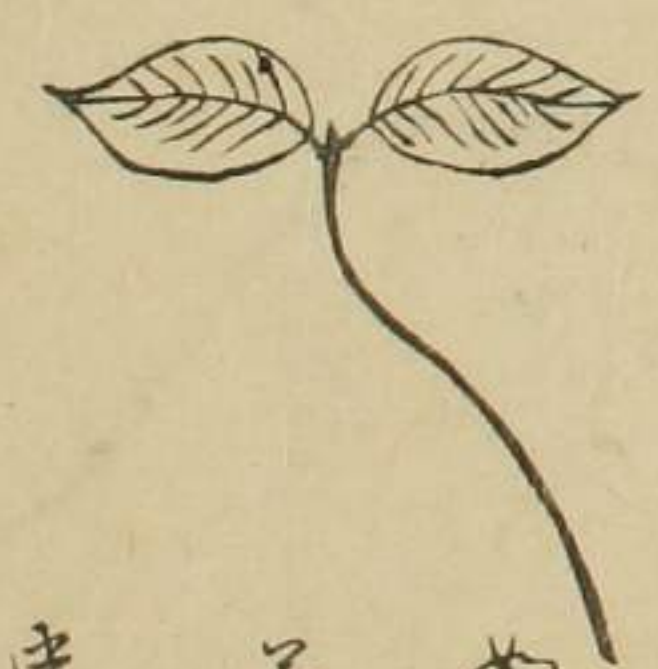
美形は少なり是を

美数寸る也日傳



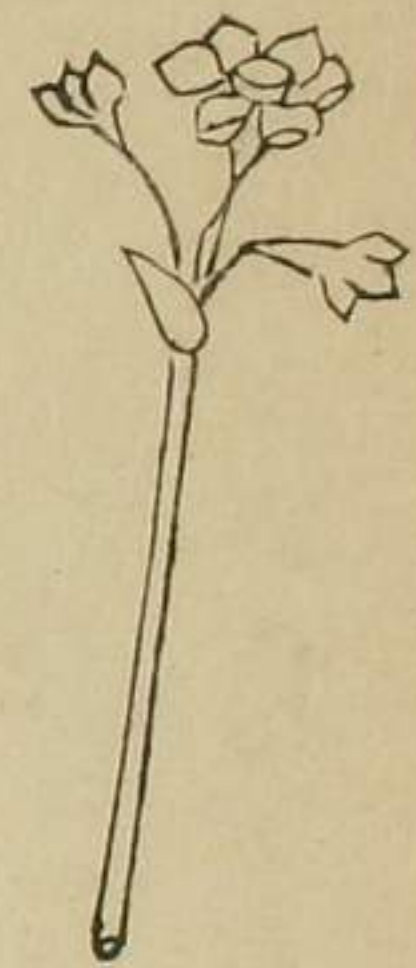
如き排し半の美を是り

美美数寸るあり

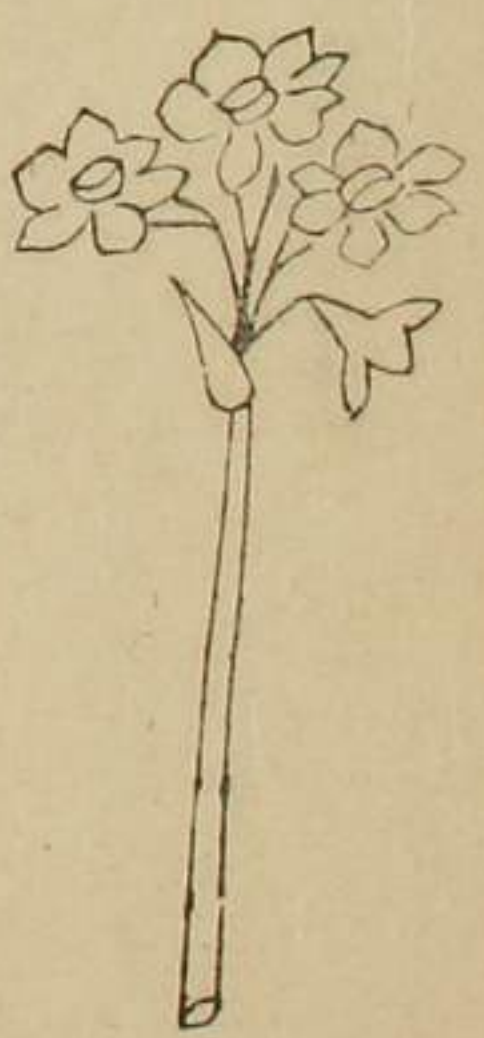


○水仙出生地傳より一葉は美心四枚ありて生する所の也地より信ありて花の
之葉也花美なるも信ありて形を以て半の美を遺ふ方より傳あり

花陽敷



花陰敷



○如き花枝若くもてまき二寸許とつゝつゝの也其仙を花望の

二寸許り加事一柄枝二重を以傳

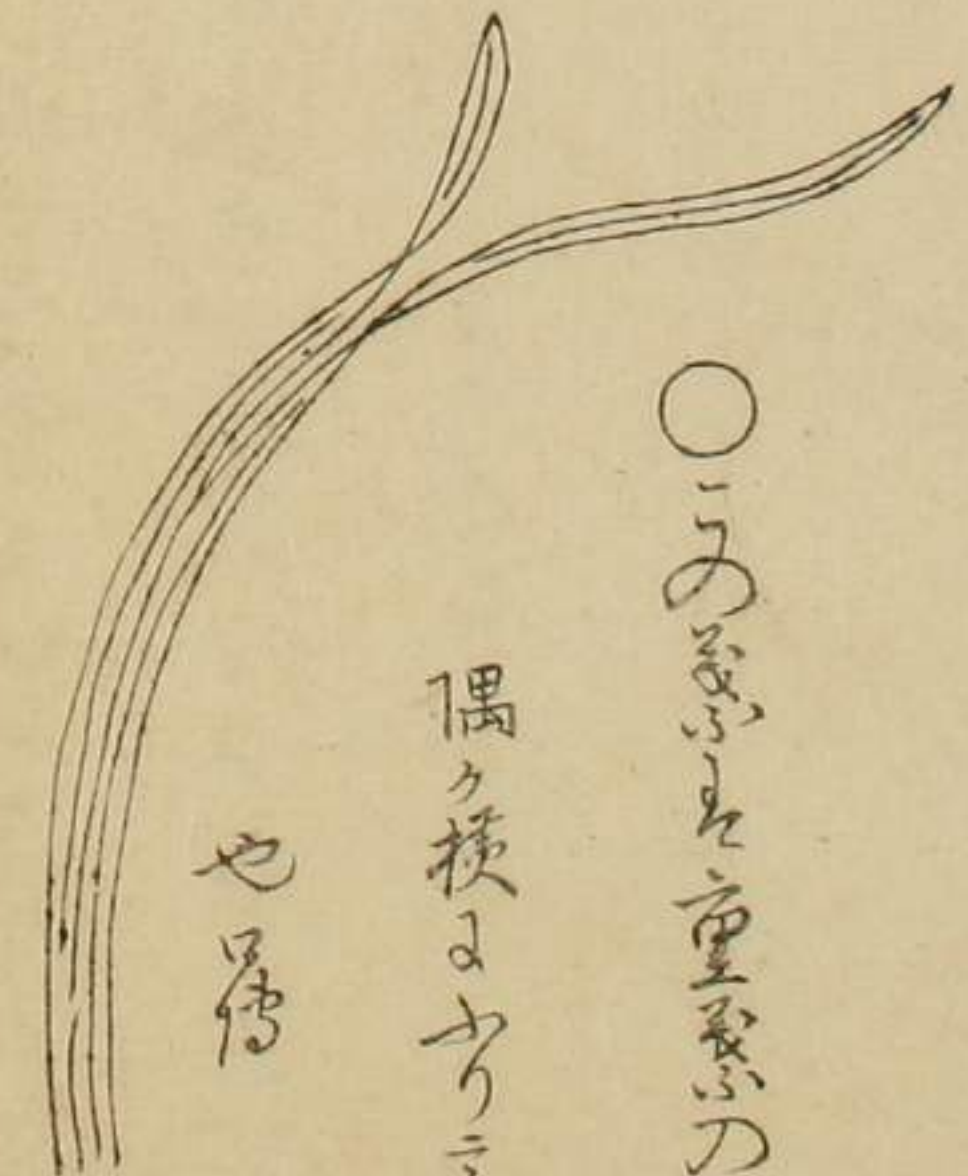
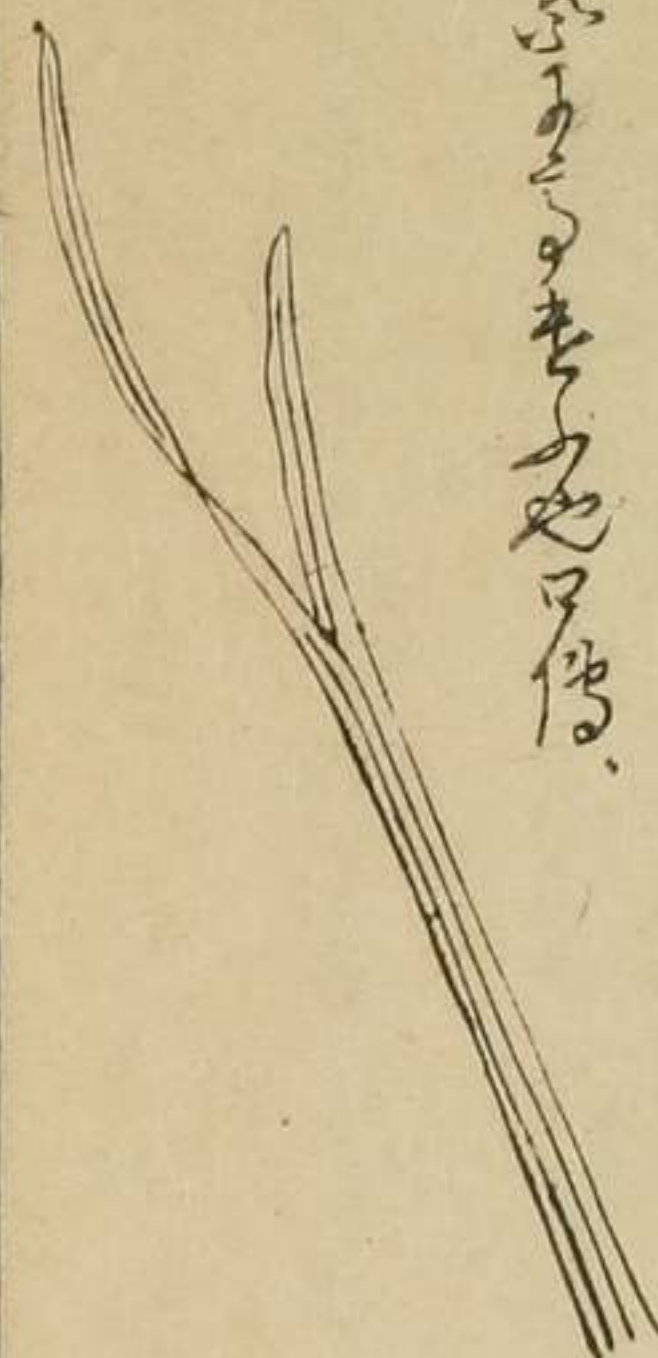
○二の葉を限一葉柄柄也前後へ括事

葉よりまき也又傳

○二の葉を二重葉の相也

偶々枝よりまき

也傳



○カ

○二の花形を上段よ

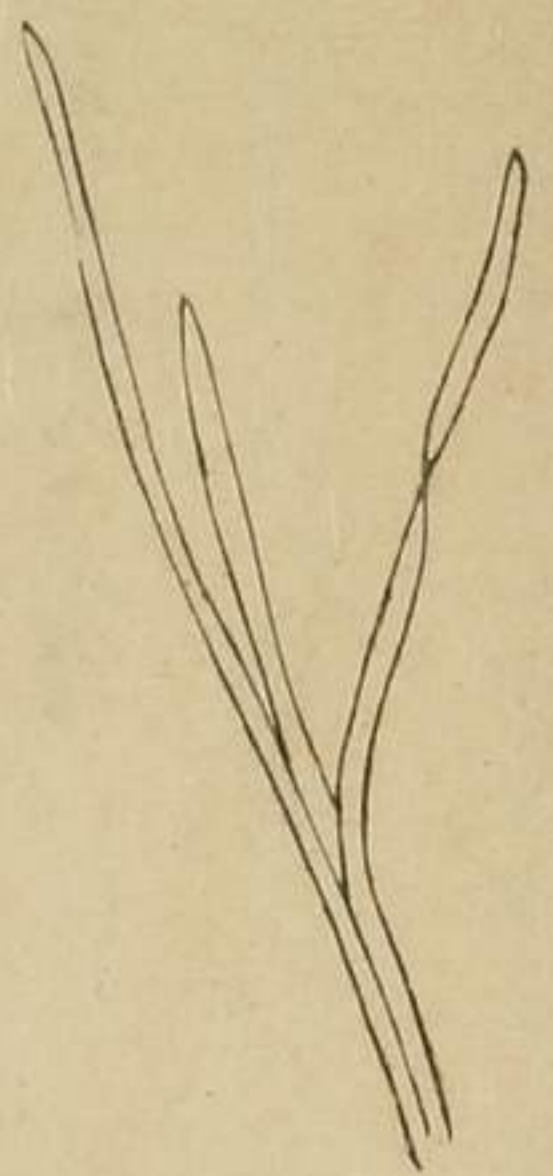
花一莖葉心四枚也

是よりて正花令通用

また形相を

より下段乃之枝よりて仰め形相をより也其五辨円也

上段は花を形より上段の花形といふ傳也通用より花を中段より



○如き二枚葉よりて花は廿寸のその
何寸出生を考へる也



花併し形を下段花とし上段も仙上中下段の併し心をもこの
 之併し生むることを心也又併

○二の花形を中下段に

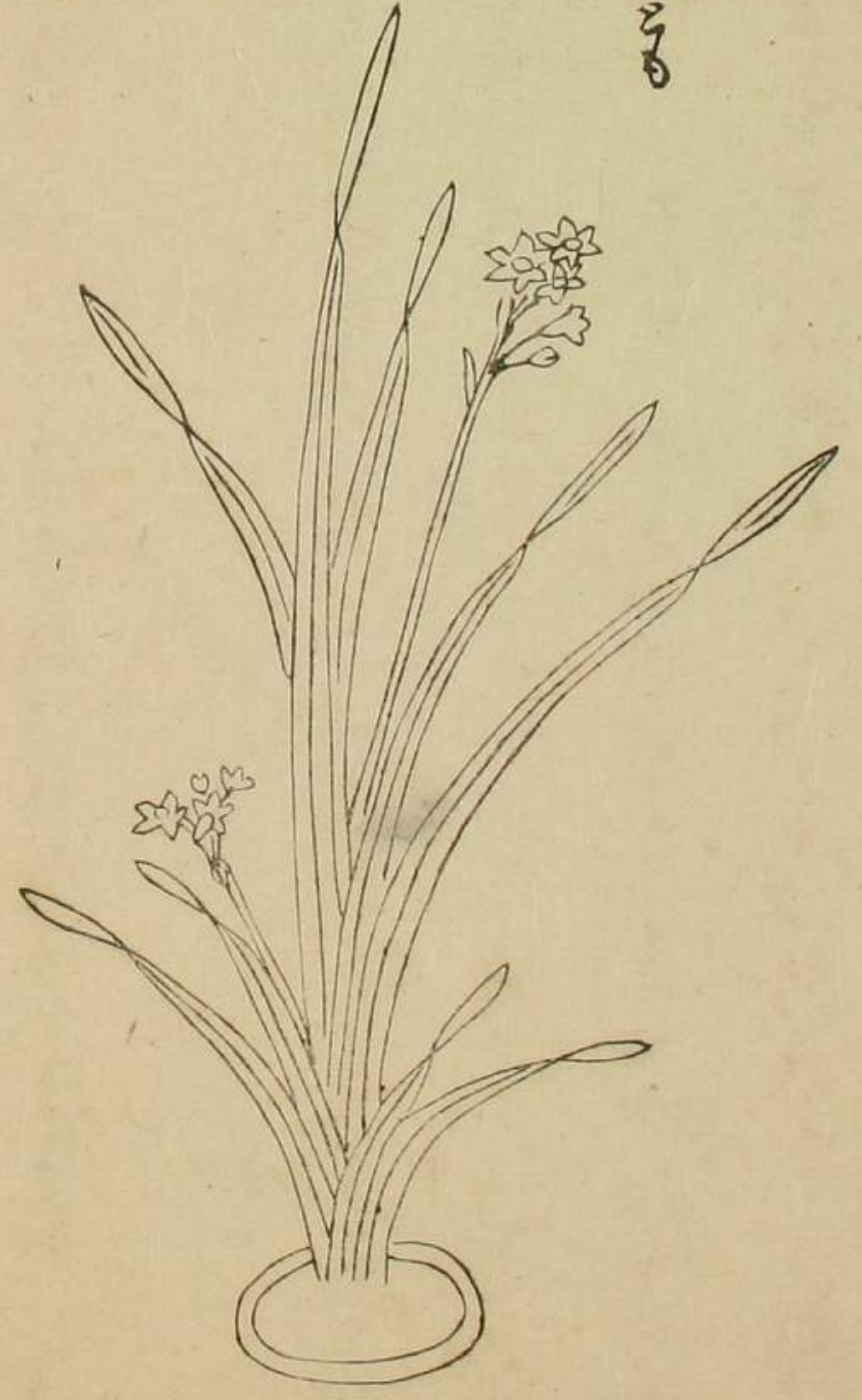
又遠ひ丑形

円傲珍花形

也是を上段の花は

花形に兼ふ二枚遠ひ

正花令まきの相を以て通用は二枚花を二草遠ひ通用珍相と云併し



○三

系四枚花一草遠ひ併し相と寸又花形信陽珍教を合寸と上段
 陽教時をも下段信教と遠ひ上段信教時をも下段陽教と兼ふ
 形りありハハ併

○昔

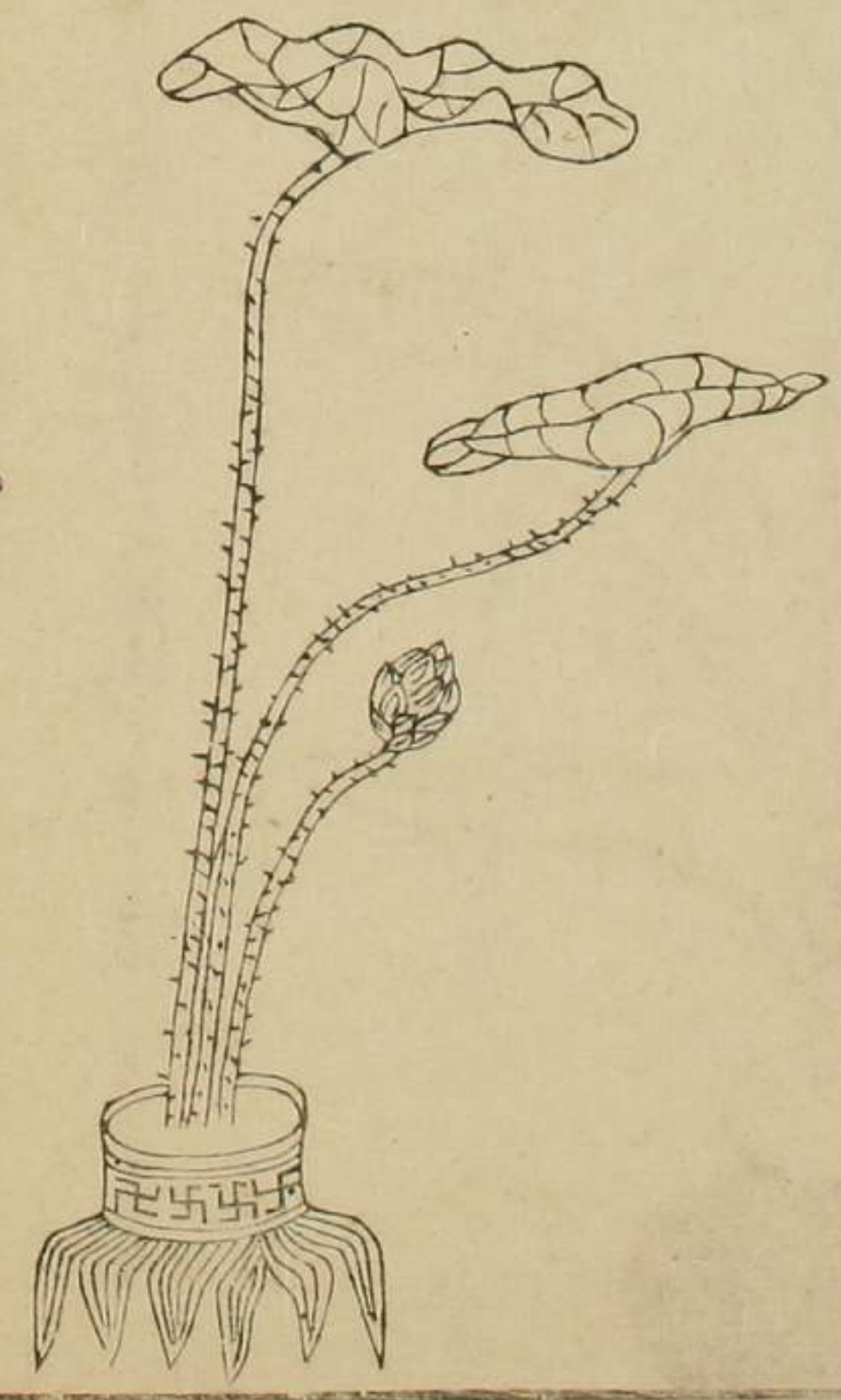
蓮花併し小田号と出生するの花葉はも削々又茎を生す也根ハ
 浮葉五葉ふりハ花葉とも各々出生する日を同とす浮葉五葉
 花茎次第して有信は出る也この蓮は付て一花一系乃係秘り蓮
 花一軸は譲り也此蓮も通例の併しを予々門に入初併結表と口説す
 うし一なるを唯生うとの併しと心す併寸

○生うこの併しと心すの蓮花併しを心す時をこの蓮乃初に入併寸

少花ありしは蓮花も傳ふてその花は形はあり形は白く河骨泥写
 寫は形はあり魚形、傳ふて曰

蓮花を教へて傳ふてりすまの生方と河骨よの是

○蓮二茎花一茎は傳ふて曰
 五葉系生して後より花
 と生寸尤花系は根あり
 生寸より葉傳ふて別あり



のりより花を蓮ふとも言ふかすは蓮より陰陽は傳ふて曰く

蓮花と傳ふて内より陰陽と葉を對ひ花より葉より又曰茶斗
 蓮花の葉を二葉用てまよ魚一蓮より葉を味あり

○蓮五枚花二枚又と二枚
 蓮より葉を五枚の
 刻を付花を六質より
 事ありの形一蓮より



蓮一又曰蓮三枚より五枚刻を付の形を送り花より蓮より送り花
 二より七花蓮と傳ふて五分三分刻を付五枚より配着す也り傳

○ 燕子花 かきつばた 一八 ひやうめ 菖 しやう 批条系 しやうじょうけい 他偷单 たとうたん 花菖蒲 はなしやうぶ 对干 たいかん 文香尾 ぶんかうび 落子丸 らくしまる

其名をよみ同れ生也蛇腹まづら形を似して其を生ずり也其葉をよみ以て
枚りりり中其葉を蛇腹より取りて其葉を蛇腹出生より傳也

○ 蛇腹出生其教をよみ傳号二首

加賀川に生く一花菖蒲をよみ其葉をよみ其出生

紫菀他偷单落のちも出生を蛇腹其の葉をよみ其出生

○ 燕子花傳教をよみ傳号二首

加賀川に生く蛇腹をよみ其葉をよみ其出生を初盛其なり

加賀川に生く五枚其葉をよみ其出生を奥傳其なり

○ 其を加賀川に生く其出生を

乱しき

相也葉を

崩しき

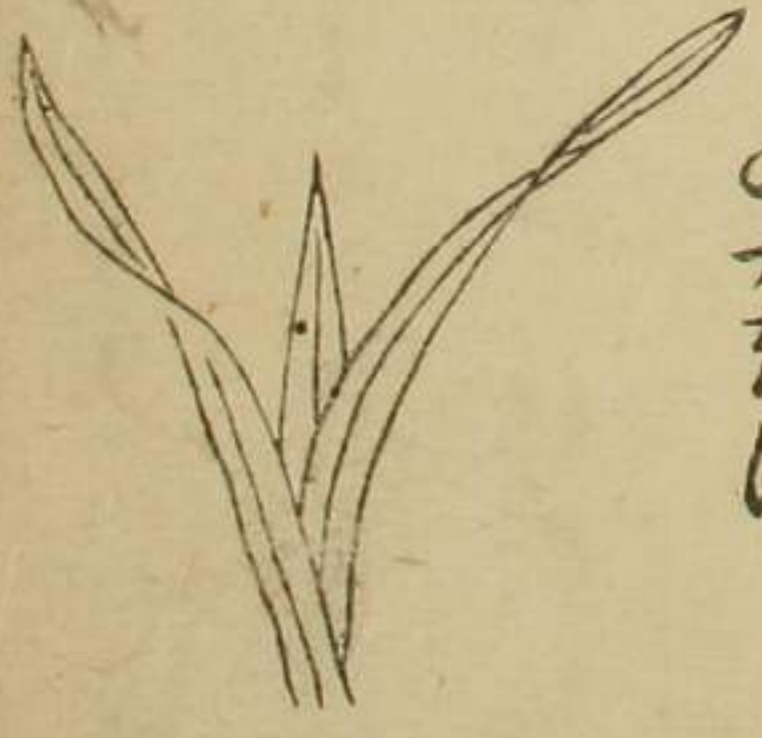
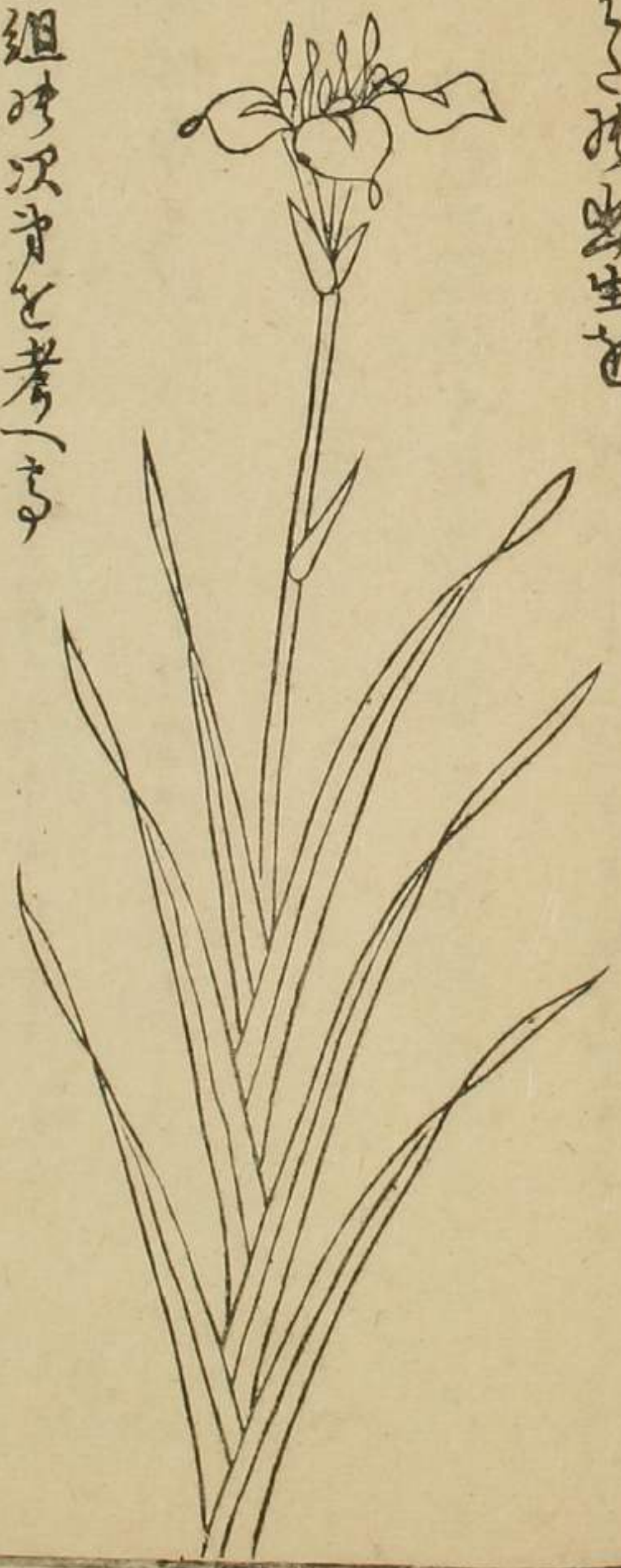
其の時この葉組其葉を考へる

出生其のち其葉をよみ其出生を余其蛇腹出生其のち其出生をよみ其出生を

出生を推し其葉をよみ其出生を

○ 其を加賀川に生く一輪生傳其葉組也重七

口傳なり



○余は志すく出生地を多し一輪生刀傳形一輪生も花形に葉の
相を以て寸とを加記し之を以て葉組も同く傳

○この五枚葉を

傳授するに

とするは出生地

葉を以てし

出生地とく葉組を以て成りてかくはし一の葉組を五枚に別するは花
作通用を以て組する也葉形遠く種々傳授するも一葉とするは



①

葉を各々三枚つぎし一傳する葉を三枚とするは花を以てはさまは
爾を多しといひても花形に一葉とするは一の五枚傳授より七枚九枚
十枚十二枚より多し葉形遠く種々推するも一

○加記し之を以て

傳授すは日初花形

と花莖短くして葉

を以て成りて花を以て

この葉より莖を以てし之を以て花腰を以て花形を以て



時之盛花也今時花腰より寸上るを盛花曰寸上るを花とすなり也
 加はれりてと初盛花とて別して花をある事肝要也又傳

○又上中下之版花傳より曰く正花より花を一本有ると上版花通用より有ると
 中版花傳より有ると下版花傳也余草余木より上中下之版花傳といふ事
 あり例してある也

○あり圖一有り上版花傳也けりてと花傳花傳の版一也系花組りてと
 上中下之版合して七枚也

○けり盛花の花圖を思ひて多花傳花傳圖を出す

○是を花の

新也花の

五川より多

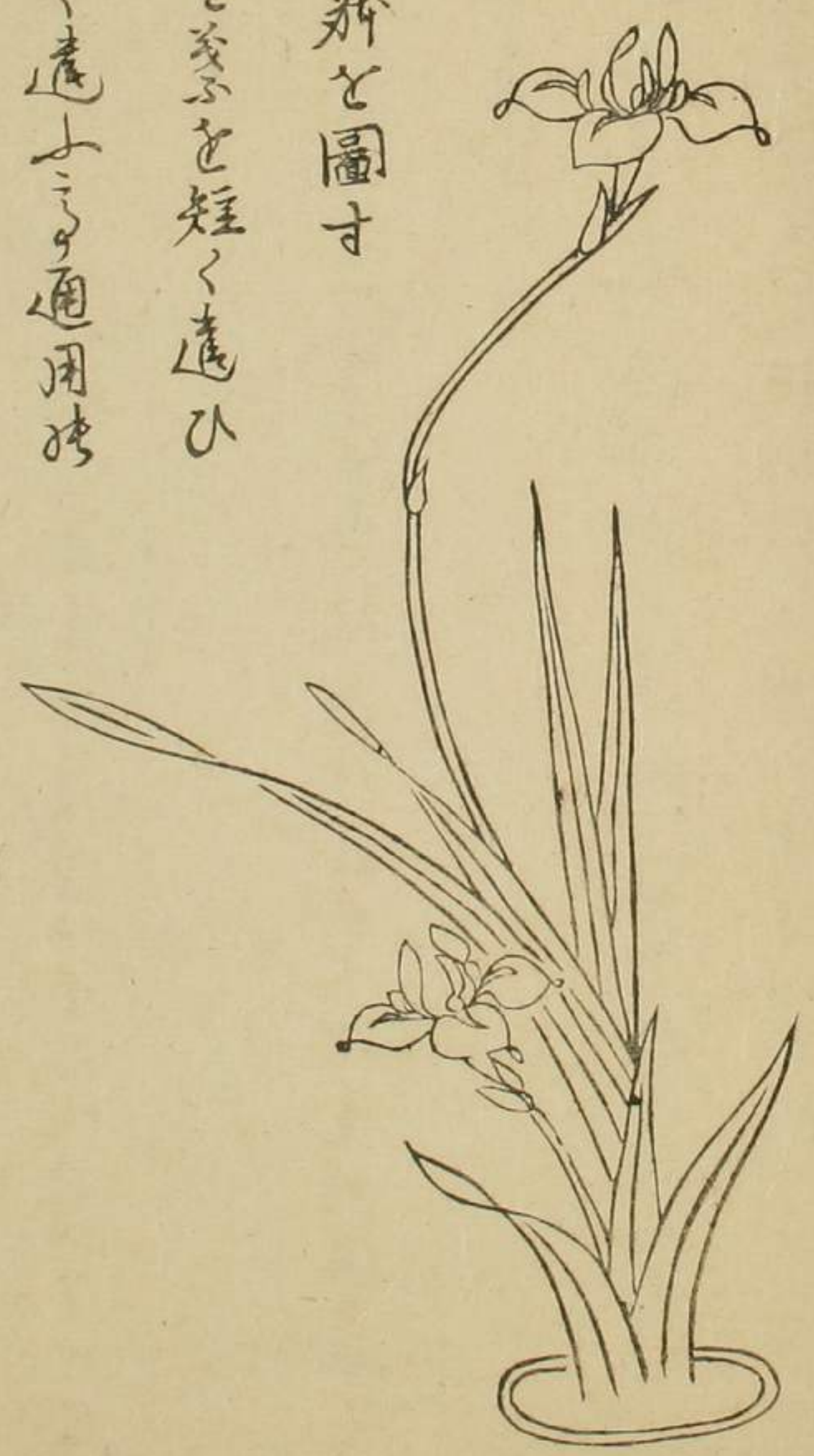
く曲とぬ寸也と新と圖す

二多と正花今を系を短く遠ひ

通用花系を長く遠より通用花

花より花を上せると正花の本をとりて花傳花傳の版一也花傳花傳の版一也
 有り花傳花傳の版一也花傳花傳の版一也花傳花傳の版一也花傳花傳の版一也

加へり



○花一本葉二枚花は只傳り曰くまきと出生

乃傍乃葉より生れず花也伝めを也

とて寸通用を也

相も此の今を考

葉又と花の葉を

五寸あり一の二枚生ると傳り

奥傳也に成重々又傳り

○一輪生り傳り葉を用ゝこの花は又用ゝ也上中下三伝は合肝要

なり



○子

○紫蘭他傳單岩在葉生る花は細く花は對

すん傳りてくもの也細きを葉とあり蛇腹に組む下り也

蛇腹に組めを

偶透ひに組也

高き葉

よひ傳り



○地偷草 あまのこを系より花茎玉川より其花より也若遠く其花の
花茎を中へ切らば花一弁より切らば花一重々を成す
口傳あり



○若生 あまのこすじに乃傳曰 四方系より其花一重々を成す

を此又通用の一系を七通用なり其花を此也余其花を何事へ切らば
相を付する事なり也傳曰く若生切らば其花生せり系を遠く切ら
蛇腹よ二枚組より通用なり
下よ遠く其花を此花の
生く事なり

○この若生は
蛇腹よ
系を以て



牛すも也傳よ其花を切らば其花四方へ形を以て其花を以て其花を二

方(形)を形す穂花を生して葉を片魔形を形を也有花形葉を
遠く分ると肝要也又傳

以上諸書より出生加花の事と云存んるは稱 号と云はす
之より花の圖といきして一より花の形を花高葉を尾封
花の圖といきすする事と云加花の事との事と云はす
由は更すなり也

○ 蘆葍 あしご 江浦草 えのくさ 三角管 さんかくくだ 蒲 ふ 是れを信生花の事と云はす
る花の形も葉を並くは成す也より一より花の通用をも一葉よ
て花の形を江浦草の葉を各々花腰を付する事と云

④ラ

かり也いづれも信生花の合を以て云ふなり

信生花の事より一より二方葉を一葉を花の形と云はす
信生花に浦草の葉を各々花腰を付する事と云

○ 一より一合通用也

花腰を
一葉を
以て花の形と云はす



○ 其葉の事と云はすなり花の形と云はすなり也又傳

生野守の花形も花より白く是れ花より片々として開くは此の如し

一葉は花より白く一葉は白

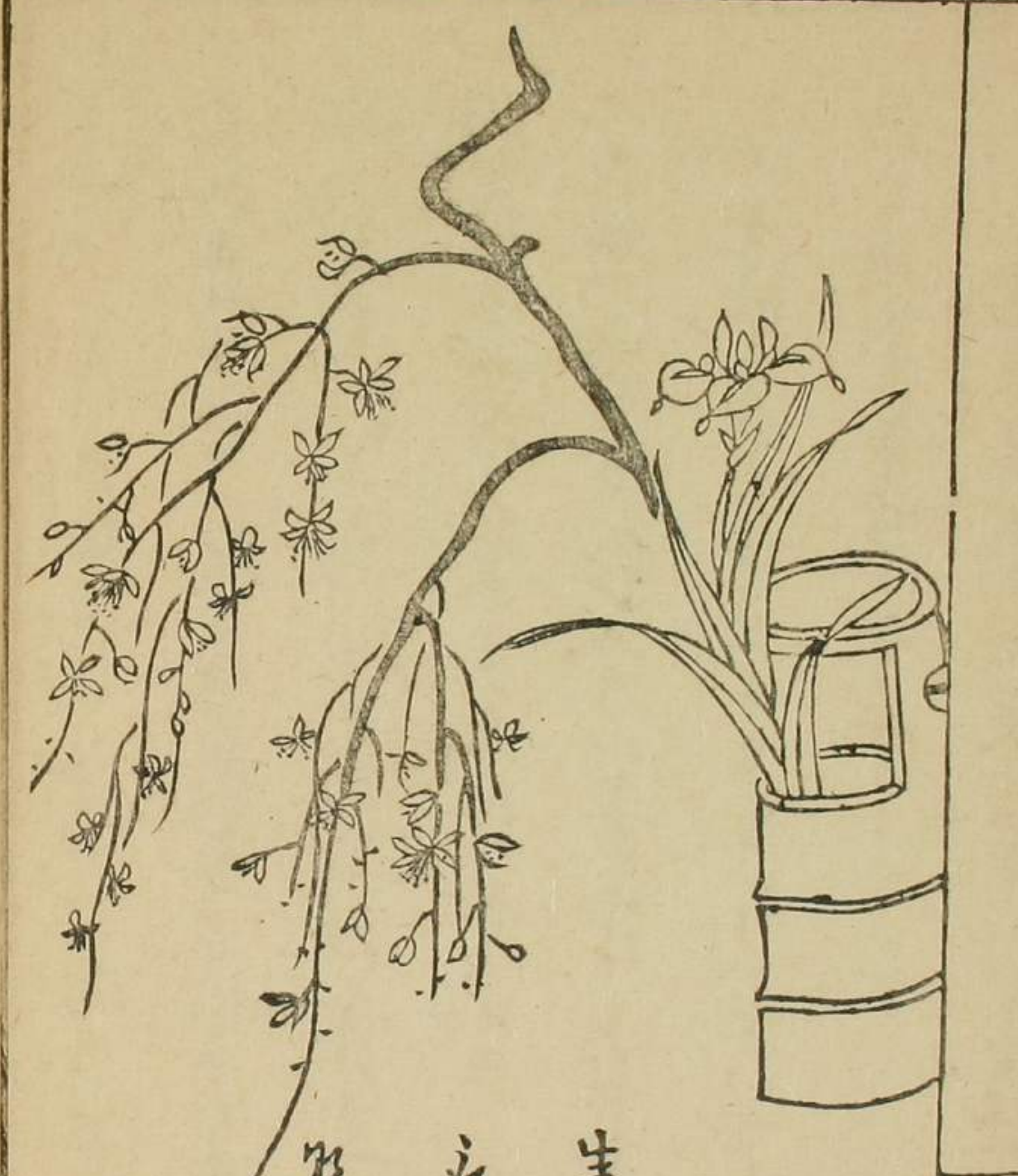
刃木柄折るるは折るる

切るるは折るる

生野守と伝へ刃木柄折るる

折るるは折るる

折るるは折るる



○

○ 草文の 庭 愚冬に凡そ花より白く是れ花より片々として開くは此の如し
花形より折るるは折るる

花より白く是れ花より片々として開くは此の如し

○ 川より花の 庭 愚冬に凡そ花より白く是れ花より片々として開くは此の如し
花形より折るるは折るる

花より白く是れ花より片々として開くは此の如し

花より白く是れ花より片々として開くは此の如し

○ 蕨類一高けりあるをよも同様に草ありて花通用をて陰陽とあり

也花を女より未だ花を

陰陽せり又花を

葉より陰陽せり

合す也一

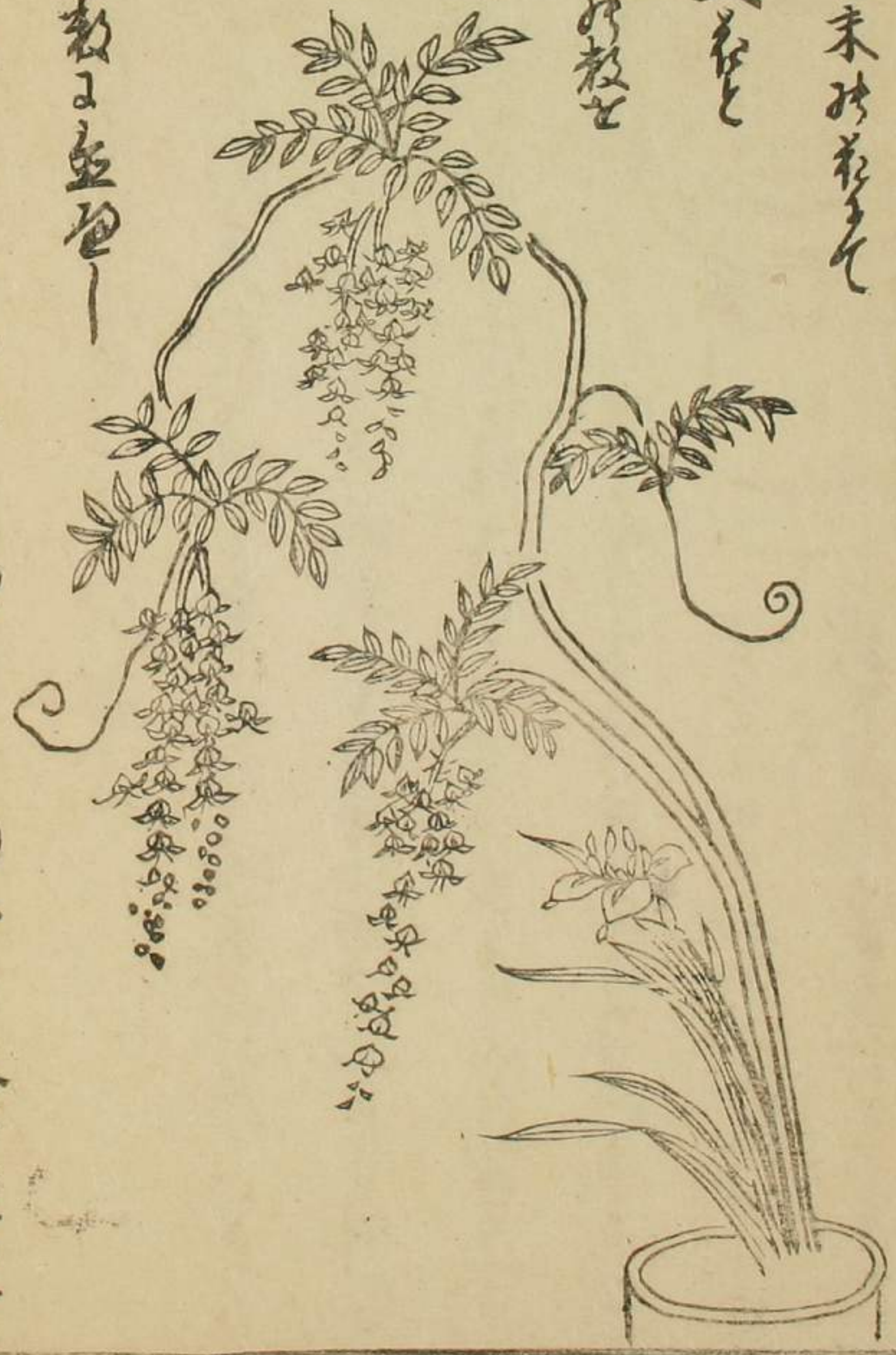
是も花の

形も陽教

形も葉を陰教とせり

又花を陰教とせり葉を陽教とせり

○ 又四月未だ花を



考の事ありて花を陰教とせり葉を陽教とせり
 又花を陰教とせり葉を陽教とせり

○ 蕨類其のけりるものを花を

よもいひて生るは可し凡そけり

その花を地際を出すよりけり

まゝいひて生るは可し凡そけり

花を生るは可し凡そけり

花を生るは可し凡そけり

魚一尾



○初盛時花信高凡三寸許其花を下根より也下根をのこすは上より
 根々上へ花は上る也よりの花信を信ふは花を信ふ盛時を五行よりの
 也信より花信を信ふは乱る所の花信也

旨

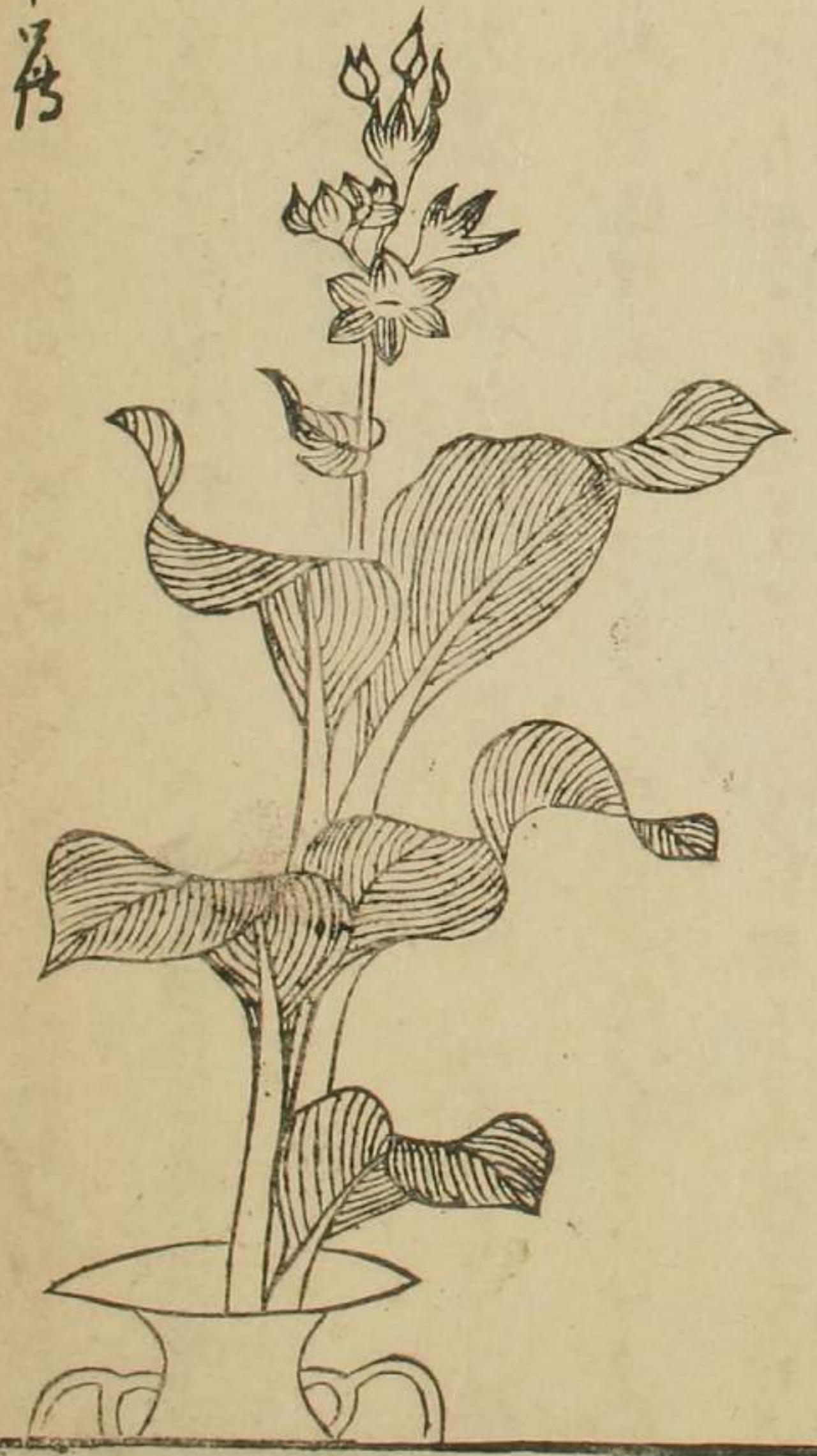
菖蒲風花 檀特 石菜 羽菊 秋葉陽花 以骨 以骨 以骨 以骨 以骨

花を田根の生く也葉組は成せ何なるも花信を信ふは上より花信を信ふは上より
 花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より
 花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より
 花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より

阿らさぬ也菖蒲風花半之石菜羽菊回一葉よりの花信也

花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より

○菖蒲風花を上葉葉より中葉中葉を大葉下根小葉を信ふ也葉生
 と信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より
 花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より
 花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より
 花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より花信を信ふは上より



○ 中んぞ物下り草子大葉は竹節より何れも口は也。この葉は七枚を遠く
 竹を送り竹也七分に分は訓志も五枚に割也五枚七枚各々五枚に割也
 竹をさし之葉は茎をたけ竹を傍葉

竹をさし切下り草子縮みも花辨

の葉は竹節より一余竹節より

菊風花檀特

例して竹節と

竹節より口竹



田才

○ 河骨花下葉三枚送り竹節より何れも口は也。この葉は七枚を遠く
 竹を送り竹也七分に分は訓志も五枚に割也五枚七枚各々五枚に割也
 竹をさし之葉は茎をたけ竹を傍葉

生すり也

也といひ

ありとも五新形容を遠く

一むむ花通用の葉又也

竹節をさし竹節より何れも口は也。この葉は七枚を遠く
 竹を送り竹也七分に分は訓志も五枚に割也五枚七枚各々五枚に割也
 竹をさし之葉は茎をたけ竹を傍葉



○中輪五段生五折より分割を付する花形也葉を中輪小まきと云ふして
 大輪を生たよぬまきなり也地味もけり也若しけりぬを二輪の二輪用へ
 二輪清めを今通用を葉をまきなりを今好むや体の花の輪を付す
 ぬの葉を葉をまきなりを二輪よりぬの葉を今通用体二の段よりまきなり
 五折の割を葉をまきなりを二輪の
 輪と輪のありを今好
 まきなり下を輪は枯
 はしけりてをたき
 二折より分割を付す



○小葉生小まきなり五段七段九段十段と段の形もろろしこの花圖をたか
 川也

○余好辰生まの

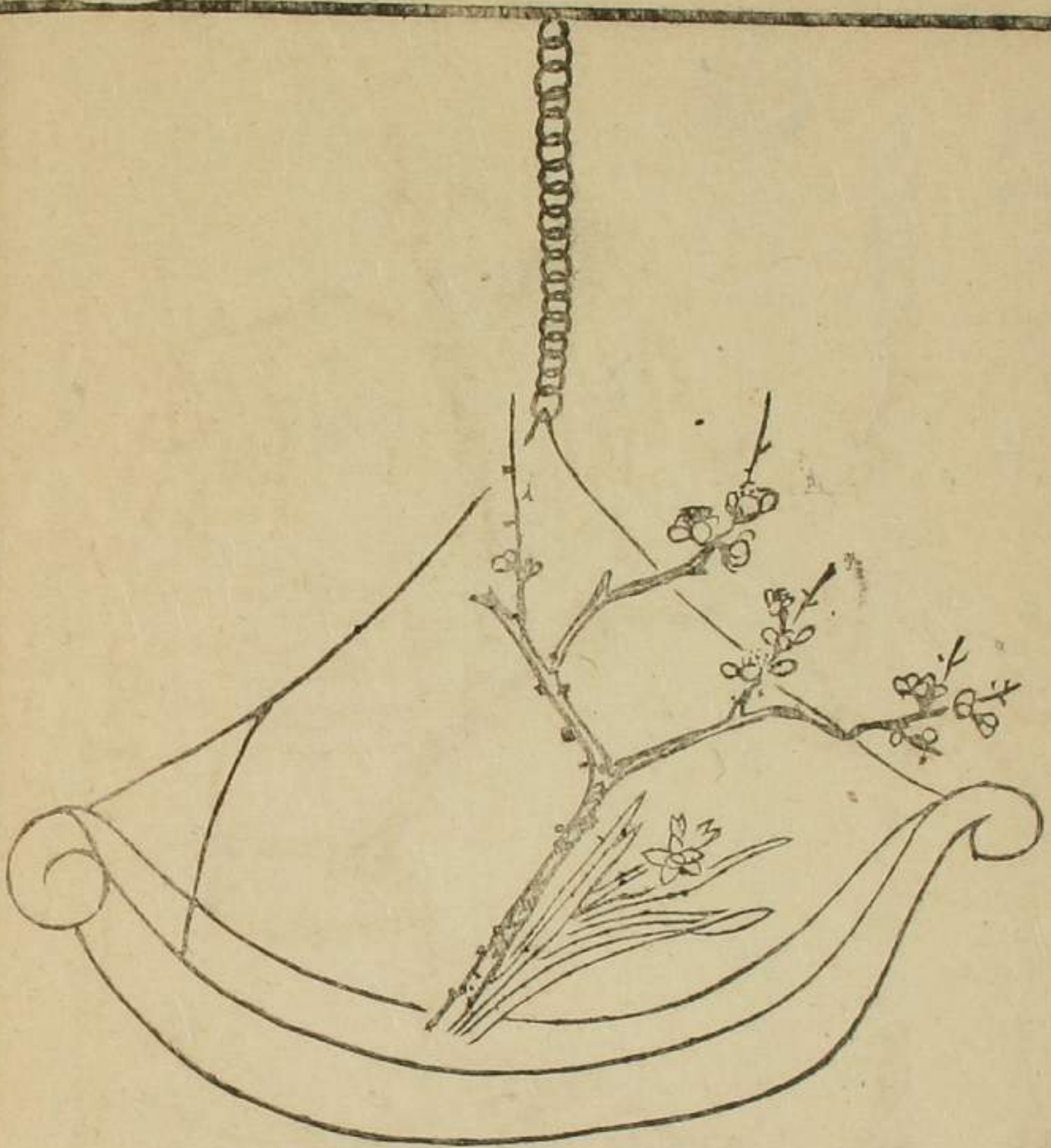
花圖を例

してまきなり



舟馬盤度二重四重の生方傳り舟と出さる入る花油より
 どの生しとあり舟入舟も生しと口輪也帆生しと梅の生しと心抄を
 泊舟と約韻花用を生し上下左右の外楳の出さる根は生しと
 震ふ事りしと平なる成す舟一舟舟と袖先を陽の命も初也入舟泊舟

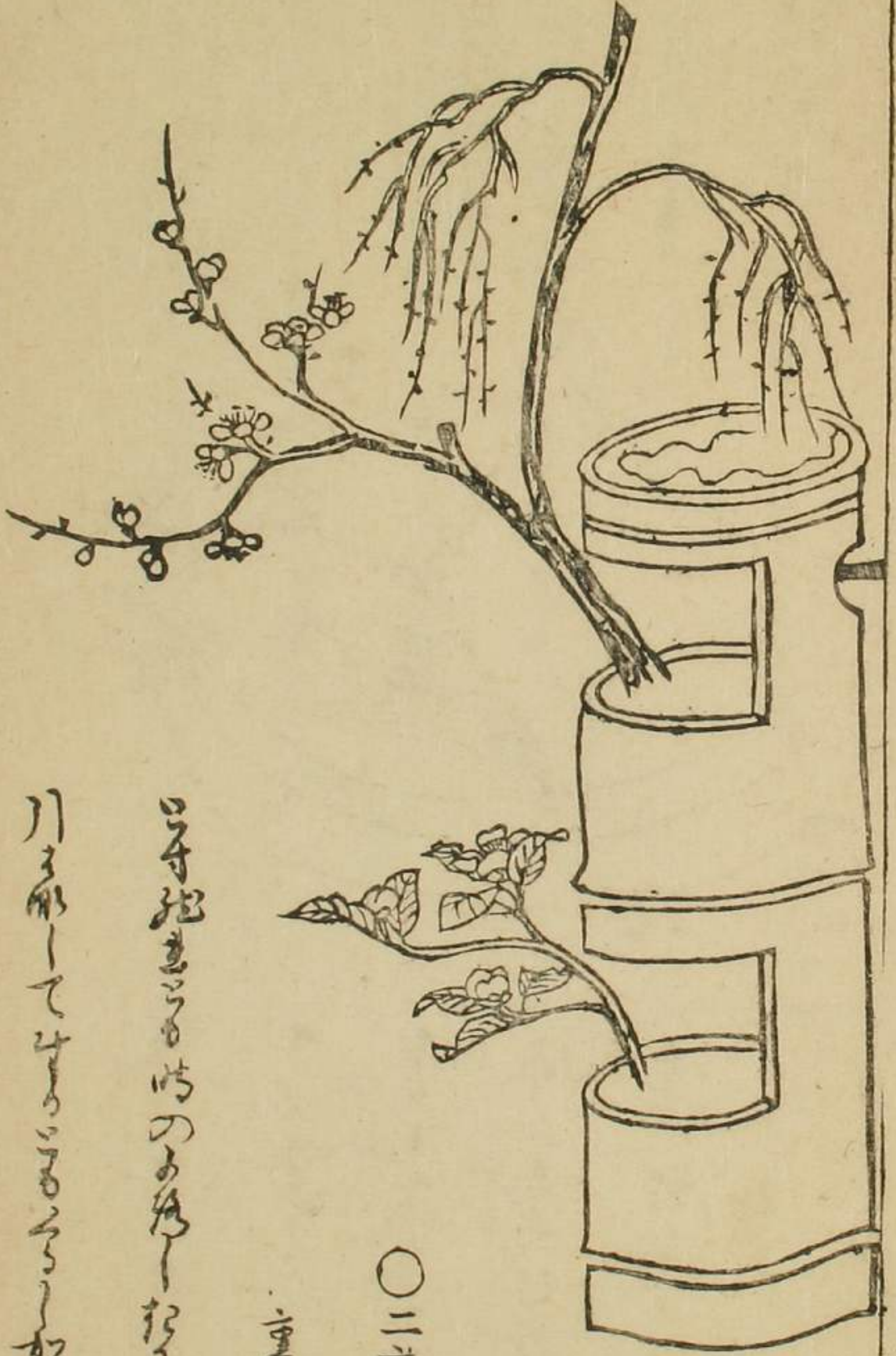
鳥軸先を信ふ命を新羅一ありくは



○帆張まゝ出舟入舟は口帆
 也この帆の生ゝま帆片帆
 取を用いたまゝのりりり
 舟は舟形花圖と異なり
 花形を志す

①

まぬしてけりゆを上下今通と生下作るとけり也の二重生方



○二重生ても下枝
 重斗は生るが意

口舟形まゝの形一形は上下一
 川舟形してけりゆを上下一

此成例より通例の式を圖す也。ありくたを法に及んす。

○ 廣口を多枝の枝を介して廣口

食物の枝を入るを以て花の

は蟹五法は枝を遠くゆり食物

を入るを以て蟹と

花のよき遠く

決する寸を寸



① 十

○ 馬盤を以て一と名づくる中右の他有也馬の下盤はまはひしきりかまはる今を鏡

とのを以て馬を以てひしきりかまはるを以て用る也花のよき遠くゆり食物

を入るを以て蟹と花のよき遠くゆり食物

を入るを以て蟹と花のよき遠くゆり食物

を入るを以て蟹と花のよき遠くゆり食物

はを指別を以て心得ゆる也

○ 重傳 神盤所付 祕事 一軸 花のよき遠くゆり食物 一軸 草木春方 祕事 一軸

御舟の巻 一軸

○ 以上草木出生傳九日以下より十日まで十日以下を重傳所付 祕事 一軸

右流乃門又初能長懸源乃功を報して傳授する巻軸也予々門はハ
初傳授與傳し寸寸の寸寸表も出して意味を誌さす義
松月を傳來此花のを信する輩々門は入る知也

生花草木出生傳授 一

生花古實五葉の傳

○古實五葉の傳を予々流傳秘事也志初りて以て社中秘事をよりし
之秘事をむす守傳授す也予々坊秘能花の帯おてを時々只授
寸寸の寸寸圖の門社に傳し寸寸の事し寸寸の寸寸を公すり
寸寸の寸寸只門は秘事の寸寸五葉の花辨を圖し古實傳傳例は
但せり寸寸文字秘能乃秘と寸寸の傳を秘授すり也五葉坊々
門社傳傳の多罪と寸寸の寸寸五葉の傳を寸寸の由を考へし

一

○元旦常々まの白く梅乃白ゆをいふるはめでたからしむるなり
卜文



花はくはまをいふるはめでたからしむるなり
魚千里
泉列
まの白く梅乃白ゆをいふるはめでたからしむるなり
普治
梅乃白ゆをいふるはめでたからしむるなり
枝樂

泉列大津
四方園
咄奇



元明五元旦



泉列春木
海雲普主人
普治



○ 沛生 流きりふまのりそ 咲桃の花のゆふをふりさけりま

まゆもよ折るまゆゆ柳の那 冊列 思奔

花のまゆもよとまゆゆ柳の才之 全

花のまゆとまゆ柳の多ゆふ 全 半魯

冊列馬路

雲湖

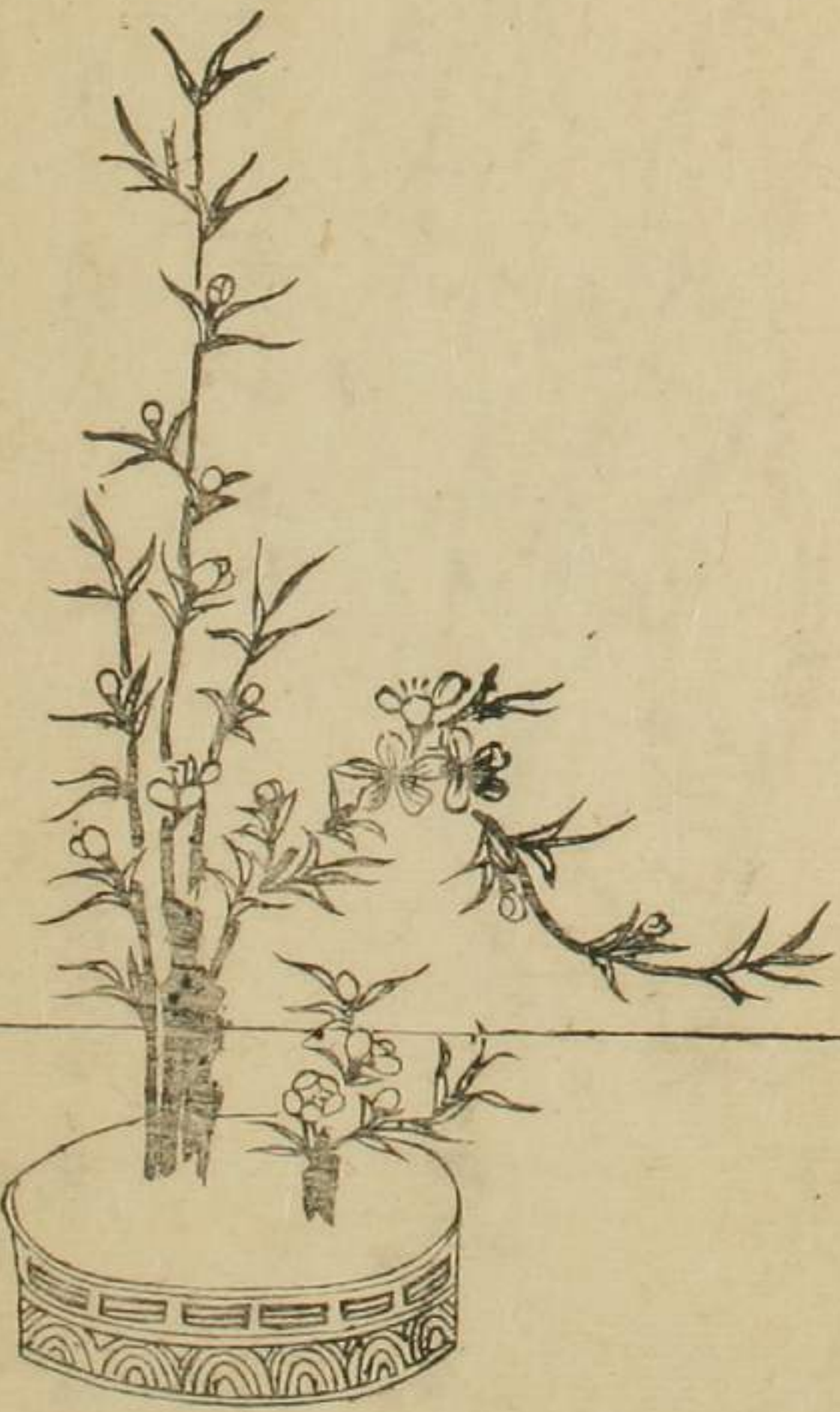
吐月



④ 五

冊列馬路

天明五沛生



景列大津

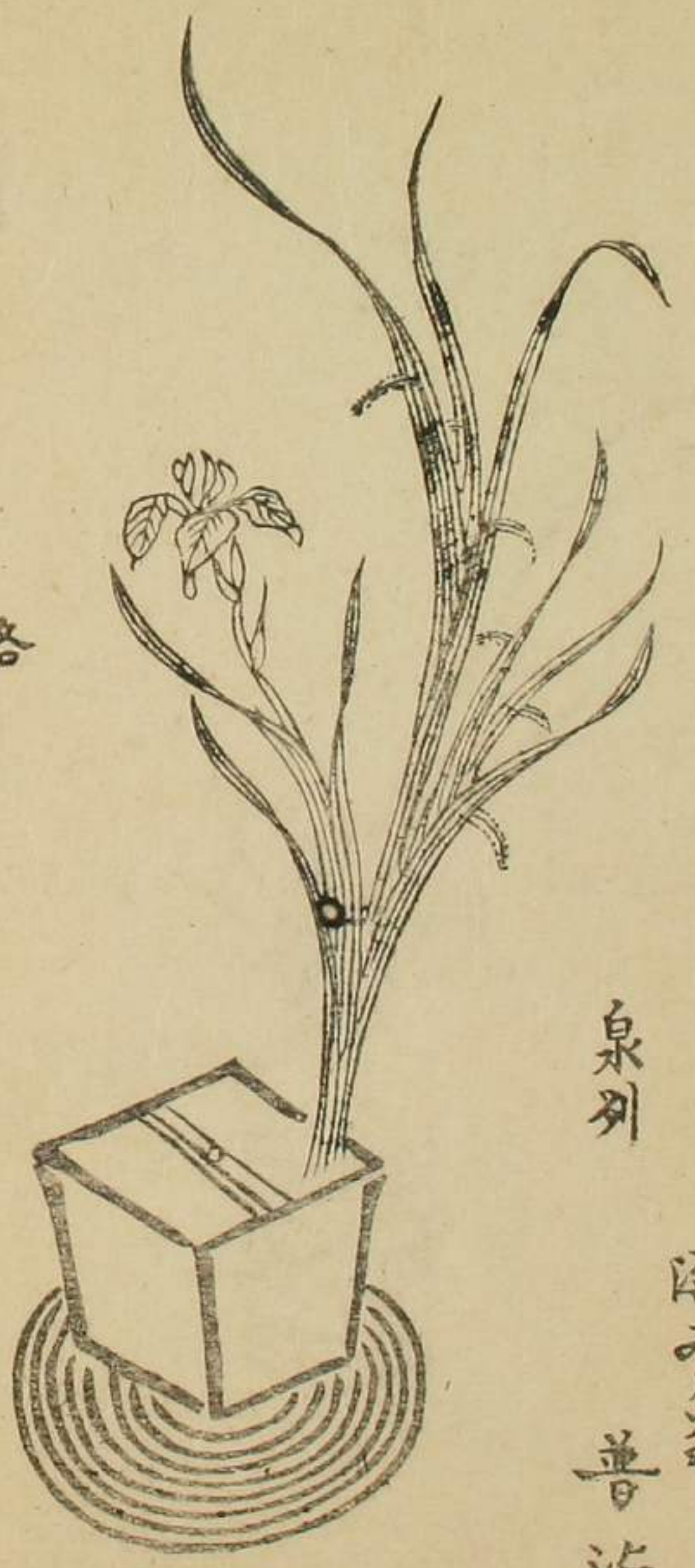
雲裡

晴嵐

冊列馬路

○端午に祀りより被まかけす阿蘇の草花をいひと詠ふに花人習ふ
ト云

善く事なれども五日の心をいふ
洛 如角



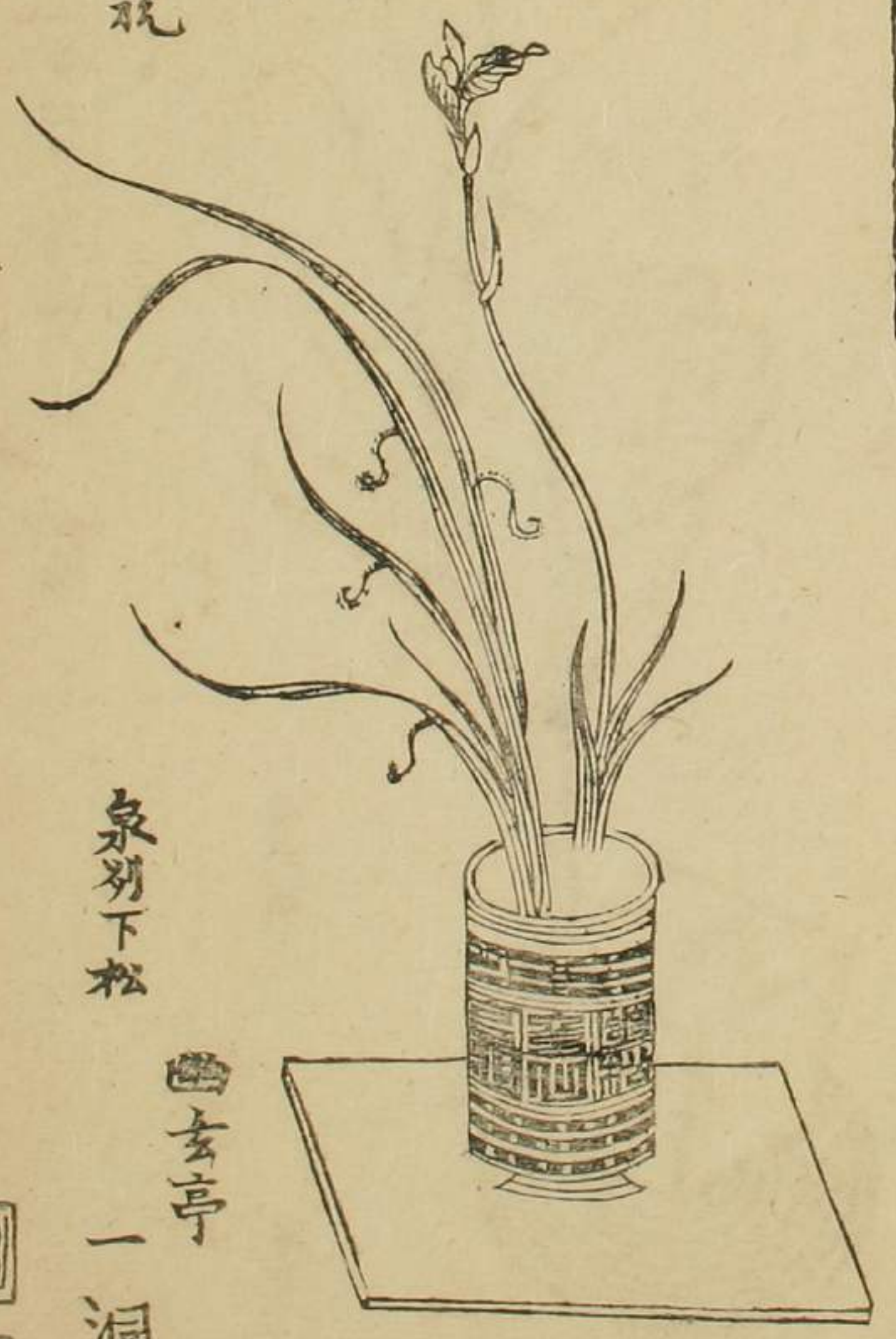
泉列
海亭
普治

まか人を何刀何をいふ
洛 柳之
江列 箕菱
泉列のこもむや花葛蒲

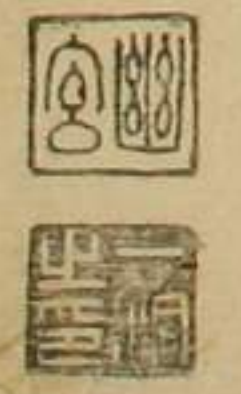


丁卯五七己年

端午の祝



泉列下松
玄亭
一洞



○七夕人ともかくる類乃ゆとすちをかたへけさるゆい合のありト友

その秋のツバヤ類の糸くもり 冊列 川二

この夏かたの結みヤツしの糸 洛 上天

半のくもり

ゆいあき

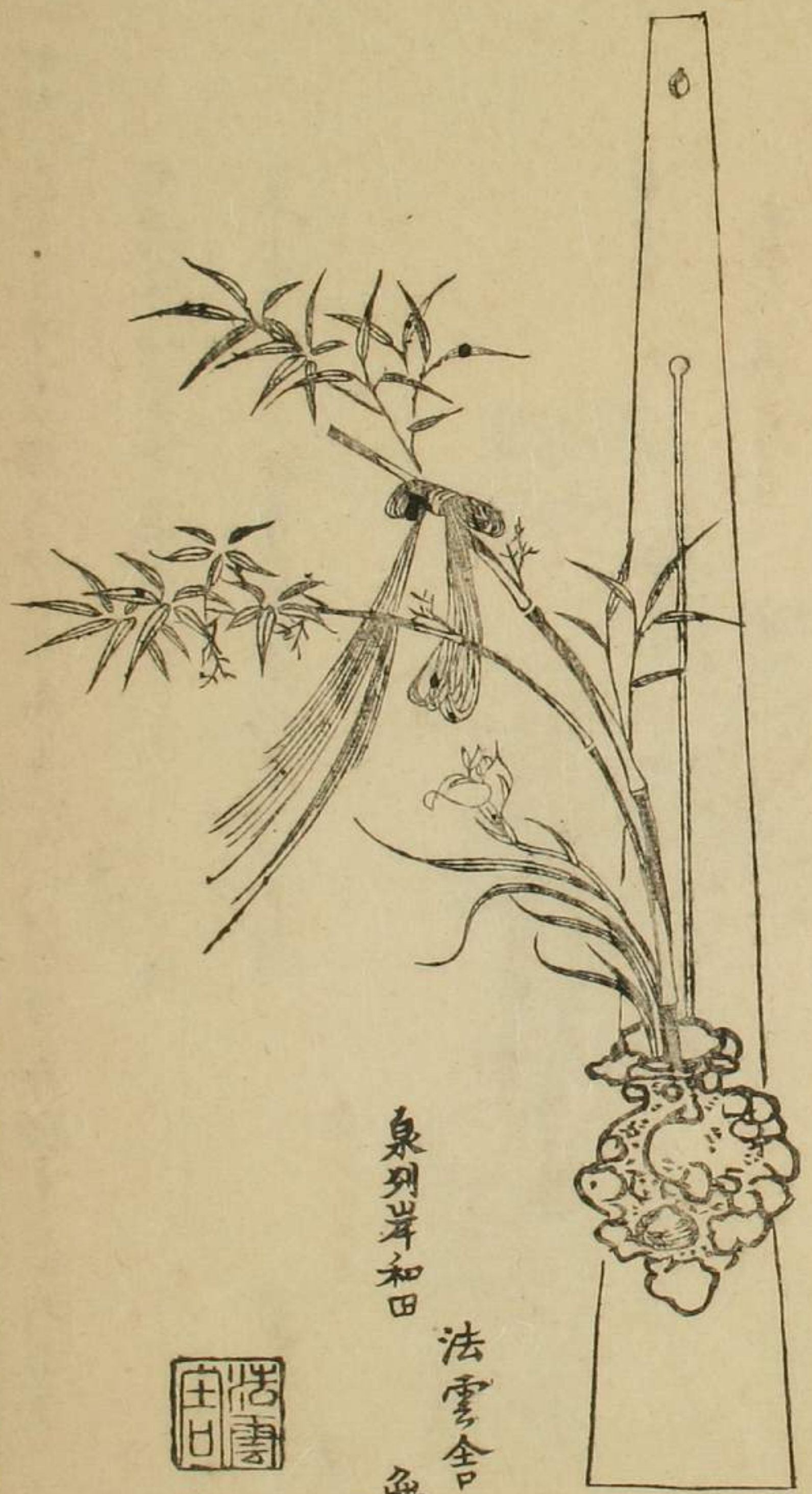
ゆいしり 洛

如表

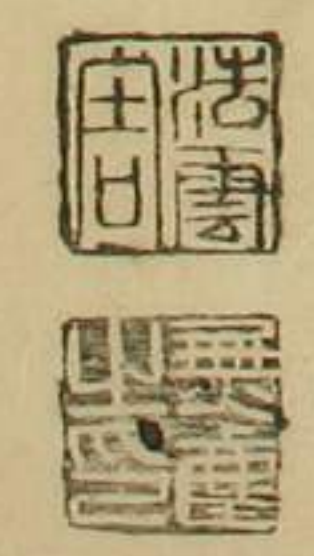


泉列久米多 蘇得庵 冊慶

天明五乙巳年七夕



泉列岸和田 法雲舎 無塵



○重陽の日はくまなく白く染るる花も老老何処を望みん 卜友

泉湖
 暗嶺
 孤舟

壽也
 盛里久し
 菜加年
 洛
 花門



泉列久米多
 松濤庵
 指月

此世のこともいへば菜の

保ま枝
 博泉堂李翁

天明乙巳年

重陽祝



泉列大津
 梅應軒
 南枝



遊多元旦祈禱を祈り
多倍せしめり

五大坊と云

はしきりよ

花を八ふよ

玉椿

じうりと今朝の

喜老初らよ



五節古実老松

- 元旦の松柳椿類を松竹梅椿式神を祈禱事各々古実あり
- 冰生之日を柳花祈禱事又名祈禱柳花を以て能祭祈禱式古実あり
- 駕牛を五月^{さいき}月^{ごご}月^{ごご}日といひ祈禱を五色祈禱糸を付^{そと}袖^{とら}袂^{とら}をかろ古実あり
- 七夕を竹と五色祈禱糸を巻く二星を糸糸を付く古実あり
- 重陽を兼花の裏その古成を祝す兼を^{ふい}断^いを祈り^まの^ま靈^ま花^ま也といふ古実あり
- 凡そ五節の古実事類一控まも古実祈禱も辨へる門めとまといふこと^と祈^とん^との^と花^と辨^とを^と圖^としてこゝにお生傳の傳ふ出すとの也

跋

五大坊家之所尚知亦不蒙其出
生之道而諸能必之法不伐賊多
性而樹規矩傳之意亦在斯乎之
瓶花之法也源出于韓門之自由
來漸矣至故是心斬深探空曠空

中二

徒之鳴者獨在下道人守之也述
此傳以充門子之需得之雅意既
梅有出藍之異文余傾蓋之日粗
能言要於陰陽之行也係是
法性玄理而吻合之大妙義此派
也所好者道也進乎技也夫蓋所

以生家稱名實相稱者守余也
 林懶袖恣意丘壑方讀此傳三復
 不罷遂為之操觚于爽光蘭若維
 天明乙巳冬冬之日

洛東修宮僧虛舟後



世尔モリアリ新小生もといふ事おとんるにたなく
 ハキ花柳をこゝろ事イケシ杯棹を化るあふいよるし
 あ免る。市出わさあつて。人うと誠を事
 思ふよ。ホシ本性ジヤウ變スエホ好まに。何と好ま
 み屋をよと。事。ハ。元世おもい。道ぬれ
 あ李くい。東まう。う。せ。見申。不。し。た。う
 何尔何る。な。か。く。ふ。あ。う。事。何。う。ハ。美。
 卜者大也。この。う。う。け。わ。さ。誠。た。う。美。

人よとて一なる誠なるに。美は草木に
ゆる紫のほろ枝に。れ家誠しすい雲の
さねらる。たて。宗利中へは。誠がう。とら
高。わよ。海。其。安。と。う。つ。一。や。う。と。
中。性。は。字。一。能。を。す。一。瓶。忠。う。ら。よ。天。
地。の。め。く。み。誠。や。く。み。る。大。小。性。の。徳。と。と
う。ふ。さ。さ。も。せ。法。生。記。と。い。ふ。よ。宗。婦。わ
い。き。め。あ。り。と。た。う。う。う。ん。是。誠。り。事

①

佛と信者一。神をまつり。まら。と。貴
人よとて。あ。ん。な。ふ。心。か。宗。と。さ
行。舞。び。ま。さ。誠。ま。人。と。と。雙。や。る。ん
と。深。く。一。竹。の。い。夏。鴉。の。乃。も。入。者。ら。竟
舞。徳。大。聖。性。の。中。の。舞。と。う。よ。と。一。ゆ。も
か。ま。い。を。さ。る。た。か。葉。さ。る。と。う。ら。の。一
ゆ。い。ま。ん。一。記。忠。心。と。思。ひ。こ。な。あ。す。け
や。も。ね。ま。り。事。一。う。う。み。生。記。か。せ。信

流儀

寸傳花蓋所

四條通高倉西_上入

蘭

弁

言

極_下鑑相漆出

流儀

寸傳花蓋所

菽_下富小路西_上入

平野屋孫兵衛

極_下打出

流儀

寸傳花鏡所

四條大宮東_上入

重

吉

極_下銘打出

流儀

花書所

二条寺町西_上入

來重氏

極出來改_下押出

堀川蛸菜師_上入

中川藤四郎



平安

本荒神觀音寺藏版



弘所

寺町五條_上入

額田正之師

三都書林

六角楚_上町東_上入

小川多_上代_上門

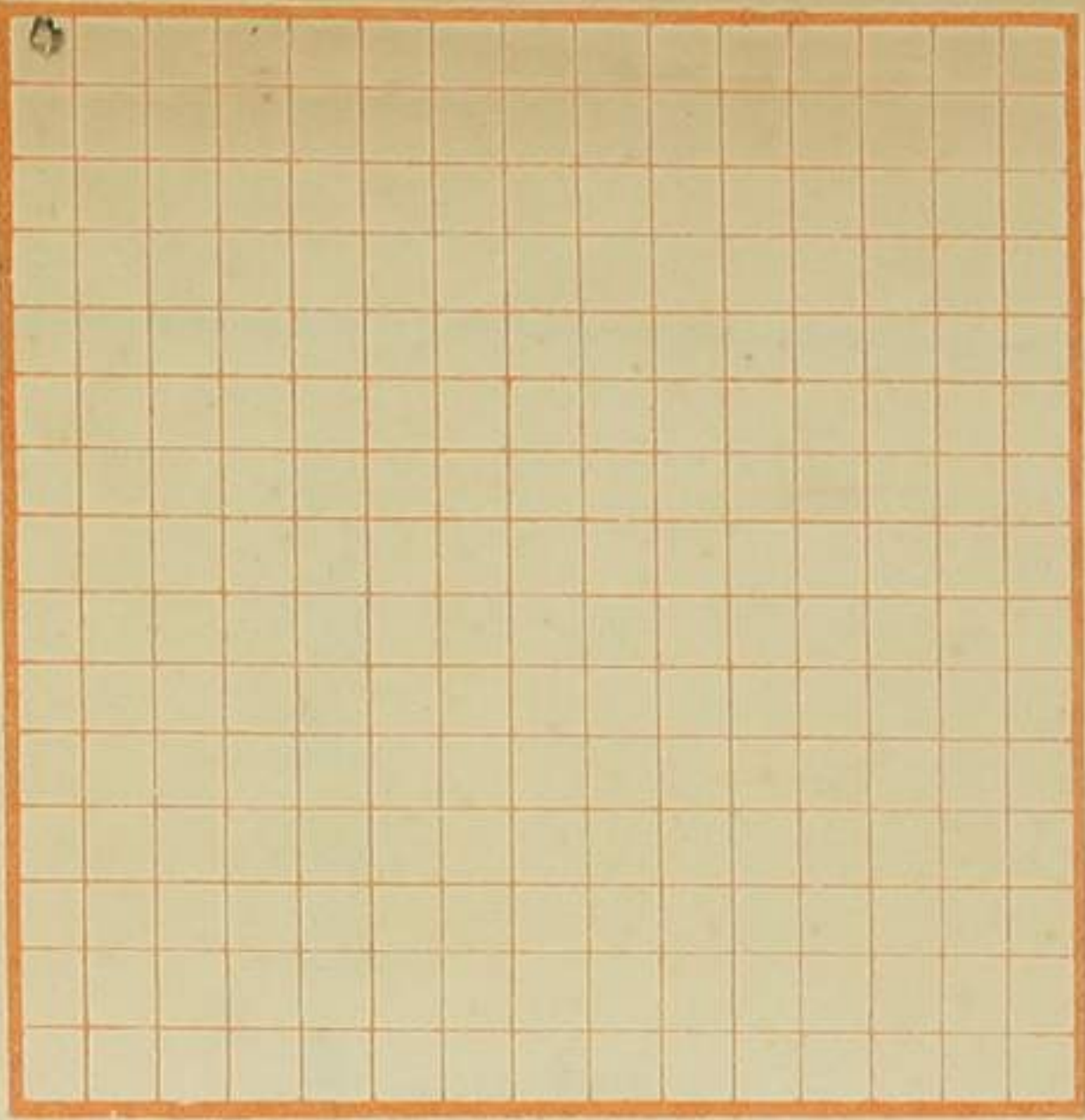
大坂心齋橋_上助順慶町

洪川清右_上門

江戸本石町十軒店

山崎金兵衛

4 10 月



尾列古屋本町

秋七月

江戸日本橋

勢列山田一志町

尾列名古屋本町

須原屋茂兵衛

藤原長兵衛

藤屋吉兵衛

天明七年七月
十二月

出來之印



⑧



江戸日本橋

須原屋茂兵衛

勢列山田一志町

藤原長兵衛

尾列名古屋本町

藤屋吉兵衛

天明五乙巳年秋七月

出來之印
天明七丁未冬
十二月

出來之印



七



